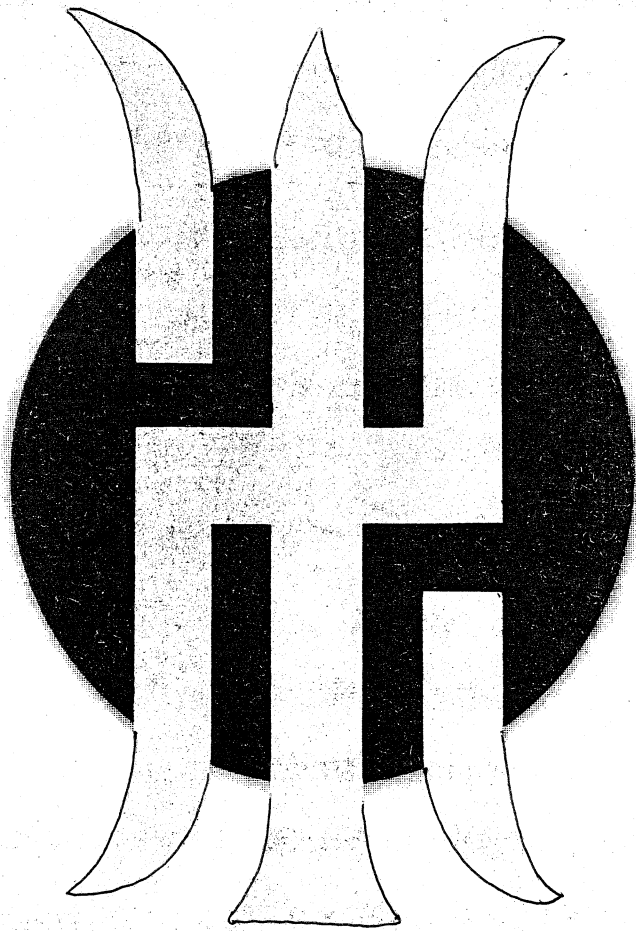


N.S.R.
機關雜誌

水泳



昭和十三年競技日程

(太字は本聯盟主催)

五月下旬より	關東學生水球リーグ戦	(神 宮)
六月五日	早慶對抗水上競技大會	(神 宮)
六月十二日	立日明三大學對抗水上競技大會	(神 宮)
七月卅一日	東部中等水上競技大會 兼日本中等水上競技大會豫選會	(神 宮)
七月卅、卅一日	西部中等水上競技大會 兼日本中等競技大會豫選會	(甲子園)
八月二、三日(夜間)	女子中等學校水上競技大會 兼日本女子中等學校水上競技大會豫選會	(神 宮)
八月六、七日(晝間)	關東選手權水球飛込競技大會 兼日本選手權水上競技大會豫選會	(神 宮)
八月六、七日(夜間)	日本中等學校水上競技大會	(神 宮)
八月十日(夜間)	關東選手權水上競技大會 兼日本選手權水上競技大會豫選會	(神 宮)
八月上旬	各地方選手權水上競技大會 兼日本選手權水上競技大會豫選會	
八月上旬中	各地方女子中等學校水上競技大會 兼日本女子中等學校水上競技大會豫選會	
八月十九、廿、廿一日	日本選手權水上競技大會	(甲子園)
八月卅一日	全國師範學校選手權水上競技大會	(東京高師)
八月廿六、廿七日(夜間)	全國實業團選手權水上競技大會	(神 宮)
八月廿七、廿八日	日本女子中等學校水上競技大會 一般女子水上競技大會	(振 浦)
八月	全國小學校教員水上競技大會	(神 宮)
九月上旬	東京小學校水上競技大會	(神 宮)
九月九日(夜) 十、十一日(晝)	關東學生水上競技大會 兼日本學生選手權水上競技大會豫選會	(神 宮)
九月	東海學生選手權水上競技大會 兼日本學生選手權水上競技大會東海豫選會	(振 浦)
九月	關西學生選手權水上競技大會 兼日本學生選手權水上競技大會豫選會	(甲子園)
九月十七、十八日	日本學生選手權水上競技大會	(神 宮)
九月下旬	關東學生水球トーナメント	(神 宮)

N. S. R.

水 泳

No. 58

— 1938, 8. —

目 次

全國學童水泳大會	(2)
水泳指導者講習會	(4)
昭和 13 年度水泳指導者資格檢定試験	(6)
水泳指導者資格檢定試験を受けて	田 中 登 一 (7)
指導者の協會欄	(9)
第一回團體長距離競泳全國大會	渡 邊 延 (10)
壯烈な開會式	小 林 高 志 (14)
昭和 13 年度クラス選手詮衡第一回發表	(15)
全國高商水上競技大會	(16)
高專飛込大會を觀て	高 橋 庄 之 助 (17)
第 11 回オリンピック水球報告 No. 2	(19)
關東學生水球リーグ戰報告	川 田 稔 (22)
偶 感	大 前 寬 (26)
フロイント氏水球講習會記	(27)
聯盟議事録	(30)
聯盟日誌	(30)

國民皆泳 全國學童水泳大會

主催 日本水上競技聯盟
後援 { 文部省・厚生省
國民精神總動員中央聯盟
日本放送協會

趣 意 書

總ての人間は陸を歩くことが出来ると同じやうに水を泳ぐことを知らねばなりません。國民の總ては護身の爲にも又身心鍛鍊の爲にも是非とも水泳を學び又大いに行はねばなりません。而してこの「國民皆泳」の實を擧ぐべき最善の方法は總ての小學生に水泳を習はせることであります。是今回吾々が文部省、厚生省、國民精神總動員中央聯盟御後援の下に日本放送協會の御援助を得て此の大會を開催せんとする所以でありまして、之に依つて一には「國民體位の向上」に貢獻し二には以て「國民精神總動員」の趣旨に副はんとするものであります。

此の大會は全國總ての學童諸君に泳いで貰ふことを目標とするものであります。時間及び場所の關係上、實際團體水泳に参加されるのは一校男女それぞれ四十名に限られる場合が多いことゝ思ひますが、是等の方法は決して在來の所謂選手として勝敗を争はれるのでなく、各學校がそれぞれ最も優れた泳手を出して平素學校が兒童を全體的に鍛鍊した其の結果を示し合はんとするものであります。此の故に吾々は全國の小學校が勝敗を念頭に置くことなしに又現在其の有する技術の優劣を問題とすることなしに一校でも多く此の大會に参加されることを熱望するものであります。

假に現在では全く兒童に水泳を教へて居ない學校でも新に適當な指導者を得て今から大會迄の一箇月間教習を行つて御覽なさい。五十米を泳ぐ兒童を數十名得ることは極めて容易であり従つて大會に参加することが出来るのです。斯くして今年参加し更に來年参加して毎年参加を續ける中に、他校と比較せずとも自校のみの成績を見てそれが少しづつでも上つて行くであらう所に興味を以つて欲しいと思ふのであります。

どうぞ全國總ての小學校が参加される様學校當局の方々は勿論全國各地方の官民御一同の御賛同御配慮を御願ひ致す次第であります。

昭和十三年七月

1. 本大會は全國各地に會場を設け中央會場（明治神宮水泳場）よりのラヂオの號令に依り下記實施要項に従ひ全國一齊に團體水泳を行ふ。
1. 團體水泳は1人50米宛とし10名（同一學校在籍兒童）を組とする500米繼泳とし尋常科男子、尋常科女子、高等科男子、高等科女子の級に區分す。
1. 地方會場は全國の25米又は50米プールたるを原則とするも、プールの施設なき處にありては

海岸、河川、湖水等にして水流の危險少き適當なる個所を選び臨時會場たらしむるものとす。會場には必ずラヂオ受信並に擴聲裝置をなすを要す。

1. 地方大會は一小學校が地方委員會の承認を経て單獨に會場を設け一校兒童のみを以て大會を舉行するものと、地方委員會に於て選定若くは設置せる會場に於て多數學校より選出せる兒童を参加せしめて舉行するものとの2種あり。後者

にありては之に参加せんとするものは、1校正規泳者10名(補缺2名)を1組とする各級氏名及び學校責任者氏名を記し地方委員會に於て定めたる期日迄に同委員會宛申出づること。

1. 本大會施行の爲各府縣に地方委員會を置く。地方委員會は地方長官を顧問、學務部長を會長とし、學務課長、視學官、體育運動主事、學校衛生技師、視學、國民精神總動員地方支部及び地方放送局幹部、水泳關係者等を以て組織す。

地方委員會は當該地方に於ける本大會の施行を統轄し地方會場の所要の設備、殊にラヂオの裝置、聯合會場たるべき水泳場の斡旋指定、これに参加すべき學校及び出場人員等につき整理指示をなすものとす。必要ある場合は聯合會場に参加すべき該地方の學校を中心とする小委員會を設置することを得。地方委員會は大會の終了後、其の概況(會場施設數、参加人員等)を中央(文部省體育課)に報告すること。

實 施 要 項

期 日 昭和13年8月28日

- 場 所
1. 中央會場 明治神宮外苑水泳場
 2. 地方會場 イ、全國各地の25米或は50米水泳場
ロ、全國各地の海岸、河川、湖水等に臨時設設せられたる會場

集合時刻 全員午前9時迄に所定の會場に集合し同9時20分迄に必ず總ての準備を完了せしめ、ラヂオ放送開始を待ち其の後の行動は凡てラヂオに依る指揮に従ふこと。

大 會 順 序 (放送開始 午前9時30分)

順序	行 事	時間	ラヂオ放送	注 意
	ラ ッ パ 吹 奏	9.35	「氣を付け」ラツパ3回	
1	開 會	9.35	只今から國民皆泳大會を……	
2	宮 城 遙 拜	9.36	最敬禮 「直れ」	會場指揮者は、豫め脱帽の上宮城に向はしめて號令をまつ
3	國 旗、掲 揚		國旗掲揚	會場指揮者は豫め掲揚する者を選び準備せしめおくこと
4	君ヶ代齊唱(1回)	9.37	「君ヶ代」1回齊唱 第2小節前奏後合唱	
5	武運長久祈願	9.39	祈願默禱1分間「直れ」	
6	會 長 挨 拶	9.40	日本水上競技聯盟會長挨拶	挨拶中は參會者はその場に「休メ」の姿勢に居らしめて差支へなし
7	文 部 大 臣 訓 辭	9.45	荒木文部大臣閣下訓辭	
8	國民精神總動員 中央聯盟會長訓示	9.50	國民精神總動員中央聯盟會長訓示	
		9.55	注 意 事 項	
9	尋常科男子500米 團體水泳開始	10.00	笛聲! 用意! 銃聲(スタート) 實況放送	
10	尋常科女子500米 團體水泳開始	10.20	笛聲! 用意! 銃聲(スタート)	
11	高等科男子500米 團體水泳開始	10.40	同	
12	高等科女子500米 團體水泳開始	11.00	同	
13	愛國行進曲合唱	11.20	愛國行進曲を合唱致します (第2小節前奏)	
14	萬 歲 3 唱	11.25	……發聲により萬歲3唱	
15	閉 會 の 辭		水上競技聯盟會長閉會の辭	

注 意 事 項

1. 大會出場者はラデオ開始前、尋常科男子 500 米 繼泳第 1 泳者を先頭に各級の順序に、列別となりスタート臺附近に集合すること。
2. 演技者は水禱若くは黒色の水着着用のこと。
3. 競技開始前に於て正規の演技者中に故障ありたる場合は審判長に届出でたる上補缺演技者を以て之に代らしむることを得。
4. 演技時間は 20 分とす。少くとも 20 分後に行はるべき次の演技開始に支障を來たらしめざる様注意すること。
5. 泳法は如何なる種類の泳法に依るも差支へなきこと。
6. 出發合圖は全國一齊に行ふ。此の場合「不正出發」は嚴重に戒しめられること。
7. 1 人の泳ぐ距離は 50 米とす。而して各級 1 組の人員は必ず 10 名とし、500 米繼泳とす。
8. 1 校の選出人員は、地方委員會の指定せる臨時會場に出場する場合は各級別に制限せらるゝことあるも、學校自ら之を管理する單獨の會場にありては特に制限せられず。
9. 自ら管理する單獨の會場にして尋常小學校の場合「大會順序」(11)、(12)にも更に尋常科男女を編成し出場するも差支なきこと。高等小學校に於ても右と同様逆に編成するは差支へなきこと。

演 技 に 就 て

1. 審判長は審判員の間意見の相違ある場合之に決定を與ふる外規則にては判斷し難き總ての疑義につき判定す。而して其の決定は最終とす。
2. 審判員は出發引繼の審査並に到着順位につき決定する外出發合圖より到着迄總ての事項を監察判定す。

3. 計時員は各 1 水路づゝを擔當し中央會場よりの秒刻音に注意し之に依りて各自の擔當する水路に於ける團體水泳の所要時間を測定す(所持の時計によるも差支へなし)、秒を單位とし、端數は切り捨つ。
4. 記録員は各演技の状況を完全に記録し審判長の署名を添へ地方委員會に提出す。
5. 通告員は演技の結果その他審判長の交付せる材料に依り一般に通告すべし。
6. 召集員は水路を定め各校責任者と連絡をとり演技開始 5 分前までに待機の姿勢をとらしむべし
7. 中央會場に於ける審判長の「笛聲」の豫令にて團體水泳出場者中第 1 泳者は各自の水路につき「用意」にて出發可能の姿勢をとり、銃聲により出發す。銃聲以前に出發したるものは失格とし、銃の打ちなほしは行はず。但し銃聲に先んじて出發したる場合も出發臺に上りて再び出發をなす場合は失格を免る。
「用意」により出發可能の姿勢をとりたる後、銃聲までの間に動くときは銃聲に先んじて飛び出す恐れあるを以て「用意」により出發可能の姿勢をとりたる後は成るべく動かざるやう注意すべし。
8. 第 1 泳者の出發するまでは第 2 泳者以下は第 1 泳者よりも少くとも「2 米」以上の距離を取りて待機すべし。第 1 泳者が出發したる時は第 2 泳者は出發臺の上に立ち第 1 泳者の到着をまつて出發すべし。第 2 泳者の出發する迄は第 3 泳者以下は第 2 泳者よりも少くとも「2 米」以上距離を置き順番を待つべし。以下同様とす。
9. 引繼は前泳者が到着後に出發するを要す。前泳者が到着せざる前に飛び出したる時は失格とす但しこの場合に於ても再び出發し直したる時は失格を免る。

水 泳 指 導 者 講 習 會

主催—厚生省・日本水上競技聯盟

非常時局下に於ける國民の健康は特に重要にしてあらゆる角度より最善の努力を致す可きこと論を俟たず、水泳が我國に於て好箇の發達をなし、世界に冠たる所以のものはそれぞれ據て來る所あり、一朝一夕のものたらざることも既に明瞭なる事實なり。

而して水泳が最も我が國民の親むべき體育に屬し國民皆泳なる語は最早通俗的のものとなり、誰人も肯定する所にして益々發達過程を辿りつゝある現下の狀況に照し之が指導者として一層適正なる方途に出で益々斯道の發達に貢獻するを要す。本會は從來

の日本水上競技聯盟單獨主催に係る本講習と略同一内容なれども、今期より厚生省の方針に協同し一層全國的のものとし將來に對處することゝなれり。

受講者を全國的に、又員數、資格等を限定の關係

上 70 餘名の少數會員に止まりしは少しく遺憾なりしも、教育の徹底並に普及效果の強化に想到すれば之の點償つて餘りありと信ず。

講習經過 (主會場 神田一ツ橋 厚生省國民體育館)

日 曜	9-10	10-11	11-12	0-1	1-2	2-3	3-4	4-5	5-6	6-7	7-8
6 水	點呼	開會式 兒玉體力局長 末弘聯盟會長		休 憩	諸注意 能渡	技術程度查閱 伸泳、平泳、クロール 小 木 會 削			體育館 内學 見 憩		指導者心得 本田 (共立女校講堂)
7 木	自習	背泳	根來	休 憩	クロール	野田	伸泳	原正一	休 憩		水泳醫事 補助運動 金子 (共立)
8 金	YMCA 補助運動 (YMCA)		柳田	休 憩	水 球 笹 島 (國民體育館) 飛 込 原 秀 夫 (明治神宮)				休 憩		標準泳法 原 正一 (共立)
9 土	自習	平泳	栢原 磯野	休 憩	初心者指導法	魏町小學校指導の 實習見學			休 憩		救助法 米谷 (體育館)
10 日	自習	浮身立泳	白山	會 食 (如水會) 石本氏歡迎座談會	飛 込 (標準) 水 谷		救助法 米谷				
11 月	帝大プール見學 クロール		松澤	休 憩	水球講義 笹島	水 飛 球 笹 島 (明治神宮プール)			休 憩		プール構築(科外) 松澤 (共立)
12 火	國民皆泳 映畫見 (文部省)	競泳技術 (代表選手實演)	栢原氏の 「生きた水」 座談會	會 食 (如水會) 栢原氏の 「生きた水」 座談會	潛 水 佐々木		伸泳 扇平泳 原 正一		證書授與式 厚生省 體育課長 日 本水上競技聯 盟普及委員長		

備考 開會式に於ける局長並に會長の口演又次日夜の金子講師の口演は別は別に採録追て發表記載すべし。

講習會講師委員

兒玉政介 末弘嚴太郎 石本巳四雄 松澤一鶴
 本田存 原正一 佐々木 救 白山源三郎
 野田一雄 原秀夫 笹島彦次郎 金子魁一
 柳田亨 磯野百男 水谷泰夫 栢原政勝
 根來幸成 小木會宏 能崎文雄 弓削芳則
 渡邊延 米谷義郎

助 手

橫尾清吾 赤澤忠彦 木村耕三 河野日出雄
 伊藤善吉 田中桂三 (以上東京帝大)
 吉田勝平 左近允正矩 稻村新太郎 辻 淳
 長岡泰正 安達誠 山田喜作 田頭亨
 中村恭治 (以上水泳指導研究會員)
 葉室鐵夫 外2名(日大)
 前川重樹 外3名(慶應)

水球、飛込、各校選手若干名

講習會員氏名

高橋勝郎(秋田) 小野寺堅太郎(三重)
 末清揖夫(東京) 野村正(東京)
 室田豐治(群馬) 大瀬元郎(京都)
 井上茂(福岡) 徳田茂男(石川)
 原田健一(臺灣) 森藤力(廣島)
 小林金次郎(福島) 中村富吉(静岡)
 内田恭作(東京) 新井進洋(埼玉)
 木村五郎(海軍) 須藤佳(海軍)
 森本信一(海軍) 叶内千代吉(海軍)
 石塚他家二(海軍) 神崎永次郎(海軍)

西村實義(鳥取) 三ヶ尻清(茨城)
 松田保彦(東京) 辻道久(栃木)
 米谷義文(東京) 北村幸次(三重)
 吉岡武夫(東京) 外山賢四郎(大阪)
 伊藤雅教(福島) 大久保壽房(埼玉)
 芳賀善次郎(東京) 田中登(東京)
 野口正明(東京) 渡邊寅一(新潟)
 森公夫(東京) 宮崎正(東京)
 中西重雄(東京) 村田要吉(東京)
 齋藤友衛(千葉) 伊丹忠義(東京)
 諸澤七郎(東京) 飯島藤十郎(東京)
 清水英樹(東京) 下田幸胤(東京)
 坂根武敏(東京) 山西長太郎(東京)
 稻村嘉穂(栃木) 加藤喜佐久(東京)
 油井晴源(東京) 島崎祐二(東京)
 野村俣三(東京) 谷汎(東京)
 木野敬一(東京) 太田清一(三重)
 田中穰(東京) 小日向利介(東京)
 伴義雄(大阪) 大内正夫(東京)
 白井一三(東京) 朝香弘文(東京)
 江口宇(東京) 久米井亮江(東京)
 菊地端(東京) 小林源治(海軍)
 植田薫(海軍) 林正行(東京)
 宮本芳衛(兵庫) 平田穰三(岡山)
 女 子
 林智恵子(東京) 永見淑子(東京)
 伊藤千代子(東京)

昭和13年度水泳指導者資格検定試験 (7月13日 14日)

1、試験日割

日曜	9-10	10-11	11-12	0-1	1-2	2-3	3-4	4-5
13水	標準泳法 水球 (筆答)	平泳 潜水 飛込標準	休憩	水泳醫事 指導者得 得心 (筆答)	クロール 立浮伸	泳身泳		
14木	救助法 飛込競技 (筆答)	救助法 背泳	休憩	競技概説 (筆答)	成績審査 合格者発表			

2、試験要領

1. 實技 水泳指導者資格検定規則に據り各委員
擔任實施 (13年度水泳年鑑参照)

2. 筆答試験問題 各科20分乃至40分

(イ) 水泳醫事 (須藤、金子)

下記の内3題を選び答へよ。

1. 水泳の體育上の價值5箇條を列記せよ。
2. 水泳前特に注意すべき體育及び衛生上の注意5ヶ條を記せ。
3. 指導者として醫事上より水泳を中止せしむべき場合を記せ。
4. 補助運動の目的4ヶ條を記せ。

(ロ) 指導者心得 (本田)

1. 水泳事故防止の要點5ヶ條を簡明に記せ

(ハ) 標準泳法 (原 正一)

1. 泳方5種を挙げよ。
2. 足の運動4種を挙げよ。
3. 浮身の要點を簡略に箇條書きにせよ。
(海水の場合として記せ)

(ニ) 水球競技 (笹島)

1. 水球競技は前後半各正味何分づゝ競技するか。
2. 水球競技は各何名づゝで競技するか。
3. 「ボール」が「ゴールライン」を越へて競技場外に出た場合次の何れが「ゴールキーパー」となるか。
(イ) 最後に「ゴールキーパー」の觸れて出た。
(ロ) 攻撃側の投げた「ボール」がそのまゝ出た。
4. 次の場合反則となるものを挙げよ。
(イ) 「ゴールキーパー」が両手で「ボール」を持つた時。
(ロ) 「ボール」を持たぬ相手方競技者を

沈めた時。

(ハ) 「ボール」を持てる相手方競技者を妨害したる時。

(ホ) 飛込競技 (原 秀夫)

1. 飛込競技を行ふに必要な役員とその員數を挙げよ。
2. 飛込競技用の飛板及び高飛込臺の高さを問ふ。

(ヘ) 競技概説 (松澤)

1. バタ足の正しき要領を簡明に記せ。
2. 平泳競技折返しに於ける失格事項。
3. 「リレー」にて引継ぎたる泳者が「フライング」したることを自覺せる場合その泳者は何うすべきか。
4. 或る地方の競技會に於て日本記録を凌駕するを得たり、記録公認及び10傑表に詮衡せしむるために取るべき手續き如何。

(ト) 救助法 (森)

1. 溺者に對する手當法を記せ。
2. 人工呼吸法は如何なる場合に使用するか。
3. 人工呼吸法は1分間何回が適當か。
4. 溺者に近寄る法及び誘引する法を簡単に箇條書きにて記せ。

3、合格者

受檢者40名にして下記33名合格せり。

(記名順は成績順序に非ず)

末清楫夫 (東京)	野村正 (東京)
大瀬元郎 (京都)	井上茂 (福岡)
徳田茂男 (石川)	原田健一 (臺灣)
森藤力 (廣島)	須藤佳 (海軍)
森本信一 (海軍)	叶内千代吉 (海軍)
石塚他家二 (海軍)	辻道久 (栃木)
米谷義文 (東京)	芳賀善次郎 (東京)
田中登 (東京)	野口正明 (東京)
森公夫 (東京)	宮崎正 (東京)
村田要吉 (東京)	伊丹忠義 (東京)
清水英樹 (東京)	下田幸胤 (東京)
油井晴源 (東京)	島崎祐二 (東京)
木野敬一 (東京)	田中穰 (東京)
朝香弘文 (東京)	江口宇 (東京)
平尾俊一 (東京)	赤澤忠彦 (東京)
田中桂三 (東京)	林智恵子 (東京)
永見淑子 (東京)	

水泳指導者資格検定試験を受けて

田 中 登

〔註〕 田中氏は東京市神田區錦町2丁目の電機學校に勤務中、數へ年41歳の人(係)

去る7月6日より12日まで7日間、神田區一つ橋の國民體育館にて水泳指導者講習會が催され、引續いて13、14の兩日同所で水泳指導者資格検定試験が行はれた。筆者は後れ馳せ乍ら青年諸氏に伍して受験し、検定委員諸氏の御同情に依て、合格者の末席を汚すことが出來た。來年受験せんとする人のために以下受験記を誌して参考に供したいと思ふ。

其の前に一言この催しについて述べて置かう。願れば去る昭和5年7月1日より10日間神宮プールに於て第1回水泳指導者講習會が開催されてより毎年7月上旬の10日間同プールで同講習會が開かれ今回は第9回目である。而して第4回までは日本水上競技聯盟主催文部省後援であつたが、第5回からは都合によつて水聯單獨主催となつた。一方厚生省なるものが本年初め新設され、體育獎勵の趣旨から本年は厚生省、水聯共同主催と云ふ事となり、9回目ではあるが、厚生第1回とも云ふべきものとなつた。尚ほ會場は昨年より國民體育館に遷された。

筆者は昭和8年(第4回)以來毎年この講習を受けてゐる1種のマニアである。尤も勤務の暇を盗んでは行くので講習日數10日間の3分の1位しか出席出來ず。3年位續けて行つてやつと一通り講習を受ける事になるわけである。

今回の講習は從來の10日間の科目が7日間に壓縮められたので、午前、午後、夜間と起きてから寝るまで講義や實習があり、80名許りの講習員諸君は可成り疲勞もし不平もあつた様であるが、筆者は例によつて出席常ならざりしたため左程でもなかつた。

本年は、水泳史と計時の權威飯田光太郎先生が残念にも最近他界されて特徴のある水泳史の御講義が聽かれず、又救助法の森秀臣先生も御渡米中との事で英語交りの名講義も拜聽出來ず何となく淋しく感じた。検定委員長石本巳四雄先生は本年初頭伊太利へ地震學の交換教授に赴任されたので、やはり御目にかゝれない事かと思つてゐたが、講習第1日の夜横濱入港歸朝遊ばされ會期中度々溫顔に接するを得たるは何よりであつた。

相會する講習員の多數は東京市並に其の近郊の人達であるが、然し其の分布状態は全國的である。關西、中國、四國は勿論、遠くは臺灣からも來會された人もあつた。先年は遙々南洋ヤルト島から來會された人のあつた事を記憶する。地方的カラーが出てゐて仲々面白い。1週間で別れて終ふのが何となく惜しい様な氣がする。

扱て7月13日の試験第1日には、午前9時より10時まで「標準泳法」と「水球」の筆答試験あり。何れも殆んど常識的の問題であり、且つ講習員に配布された水球年鑑(昭和13年版)にも書いてある事であるから大抵の人が出來たらしい。筆者も満點は望めないが6、7點はあつたらうか。

午前10時より12時までが「潜水」「標準飛込」「平泳」の實技試験。

潜水は25米で甚だ苦しいが不思議に皆出來る。只1、2名23、4米邊で浮き上つた人があつたのみ。但しフォームは蛙足平泳が正式なのであるが扇足やバタ足の人も可なりあつた。之は減點されるであらう。

飛込は3米の固定臺から立飛と逆飛を行ふのである。日本式の飛込であるから臺より遠くへ淺く飛ぶのがよいので所謂ダイビングをやつた者はどうしても深く潛入して具合が悪い。寧ろ筆者の様に飛込なんてやつた事のない者が勇敢にやつた方がよい様である。お蔭で辛うじて及第點には達した様である。

次は平泳100米である。之はスピード一點張であるが多くの人が標準の2分以内に入つてゐた。然し筆者の如き貧弱な體格で而も中年になつてはスピードも1番苦手で、この平泳100米も2分6秒と云ふのんびりしたタイムで完全に落第。

午後1時より2時迄が「水泳醫事」と「指導者心得」の筆答試験、之も講義を聽いて置けば譯ないのであらうが、筆者は講義に缺席したので満足に答へられないのは勿論であるが、問題はやはり常識的のもので「水泳を中止すべき場合を列舉せよ」「指導者として心得置くべき事項如何」等の類で驚く事はない。殊に「指導者心得」に至つては委員諸氏と受験者との見解の相違もあり、數學の問題の如くカツキリと答が出るものでないから満點が得られないと同時に零

點にもなるまい。(先年はグリコーゲンに就て知る所を記せ、なんて可なり専門的の問題も出た事がある)

午後2時から5時までが伸泳、立泳、クロールの實技試験。伸泳は25米を泳いで見てフォームによつて採點される。25米を12回の扇りで泳ぎ切るのが標準だと委員は云はれたが伸々12回では出来るものでない。全受験者中2、3名あつたかどうか。14回なら良い方で15回が普通か。この場合先手を搔いても搔かなくても良い事になつてゐるが、先手を搔くと1回の扇りに對し良く伸びるがフォームが崩れ勝ちとなる。先手を搔かないとフォームは亂れないが伸びが悪い。この處痛し庠しだ。それにしても本田存先生などは5、6回で25米を泳がれるとは全く達人である。筆者は不出來で5、6點か。

立泳は踏足にて兩手で水球を空中に支へて18米前進するのであるが、之は完全に出來た人が少い。3分の1あつたか。近來競泳が重んぜられ、こんな御家藝的のものが輕んぜられてゐる勢であらう。之は競泳の如く體力は左程必要はないので、脚や足先の微妙な動作によるものであつて筆者は稍得意とするものであつたから、水球を水に漬けず肩も左程動揺させず18米を無難に前進した。8、9點はあつたらうか。

次はクロール、勿論スピード第1、標準は米100を1分30秒以内。筆者はフォームに左程缺陷はない様に思ふが力に不足あり、1分36秒2と云ふ芳しくないタイムで又々完全に落第。前記平泳もこのクロールも後記背泳も6人宛競泳を行ふのであるがこの場合自分より一寸強い者と並ぶと精神的に引張られる感があるので好都合である。以上で第1日は終り。

第2日は午前9時より10時まで「救助法」と「飛込競技」との筆答試験あり。前者は講習を受けた者は譯なく出来る「人工呼吸法を必要とする場合を列擧せよ」とか「溺死者を誘引する方法」とかの程度のもの、後者も年鑑を見て置けば完全に出来るものである。筆者も先づ及第點か。

午前10時より正午まで救助法と背泳の實技試験あり。前者に對しては初めマツトの上で助手の人をモデルに人工呼吸法を5、6回行ふ。其の速度、體形、力の入れ方、手の放し方等を見られるのであるが、不出來の者は訂正される。後水中で助手の方が溺水者となり、受験者に抱き付き、それを放して岸まで運ぶのであるが、間違へた者にはやり直しを命ぜられる。かくて成績に甲乙はあるであらうが、大多數は及第らしい。

次は背泳、50米を1分以内で泳ぐのであるが、多くの人が標準時間内に入つてゐた。筆者はスピード物

が苦手だが59秒5といふタツチの差で辛うじて入選。

午後1時より競技概況の筆答試験あり。1、2、3番の問題は平凡であつたが、4番の「或る地方に於て新記録を作つた場合之を公認して貰ふための手続き如何」の問題には一同一寸面喰つた。然し之も年鑑にチャンと書いてあるので吾々が氣が付かなかつただけの事である。又年鑑を見てゐないにしても、何處の誰が何處のプールでどんな競泳にどんなコンディションの時どんなレコードを出した等と申告すべきだといふ位は常識的にも想像の付く事である。

凡て學科の方は概して簡單で、講習會開期中だけの勉強で足る様である。之に反し實技の方は數年の研鑽を必要とする。

以上で兎に角檢定試験は一通り終了。午後2時から5時までに成績審査が行はれ、5時合格者が發表されたのであるが、筆者は前記の様な不成績であるから、合格等とは全く豫期してゐないので、勤務先からの歸途6時頃念のために發表場へ一寸立寄つて見た。處が意外にも名が出てゐる。之は他かの間違ひか左もなくば檢定委員諸先生の絶大なる御同情によるものである。合格者33名中優が6、7名、良も6、7名、残り全部が可で、筆者は勿論可の部でも終りから數番目。(今回の受験者は40名であつて合格者は其の8割に當り、講習員は80名であつて合格者は其の4割に當る)。

そこで偉い先生達がづらりと列んで居られる別室へ合格證を頂戴に罷り出る。松澤御大より「伸泳は伸びが足りない、潜水は25米出來たがフォームが思はしからず、競泳ものは標準時間に足が出てゐる、學科の指導者心得も芳しからず」等と一通り御小言を頂戴して後「多年熱心にやつて居られるのでそれに免じて、今後も一層研究して貰ふといふ條件付きで」と附言されてやつと合格證を頂戴した。勿論筆者自身も完全に資格を得たとは思つてゐない。先づ資格(4格)の内今回は3格を得たのみで、來年研究生として参加させて頂き、殘る格を獲得し完全な4格(資格)にしようと思つてゐる。

以上によつて、今後受験される方々は、どれ位出來ればどれ位の成績に成るかを御想像下さい。

最後に一言; 曲りなりにも資格を得たといふ事は、厚生省、並に日本水上競技聯盟の國民皆泳運動に參與させて頂けるといふ事であつて、國策遂行の一助となり得る事は教育者として嬉しい次第である。殊に我が電機學校は7,000の生徒を擁して居り水泳に關して直接間接にこれら多數の生徒に與へる影響は大なるものがあらう。(9頁右下へ續く)

指導者協會欄

昭和13年度水泳指導者協會總會

昭和13年7月14日午後7時神田一ツ橋如水會講堂に舉行す。來會者54名、下記主題につき報告及び協議を行ひ午後9時30分解散す。定例として次期も検定試験終了直後開催の豫定。

1. 事故防止に關する意見並に對策 松澤一鶴
2. 伊太利最近國情及び水泳に就て 石本己四雄
3. 「歩け泳げ」なる「スローガン」に就て 栗本義彦
4. 水泳普及の階梯如何 (福士直次郎 鹽田粹)
5. 海水浴場の監督者の資格に就て 森藤力

6. 地方水泳實施の狀況

{三上節造
原田健一
森藤力

7. 水球簡易「ルール」説明

笹島彦次郎

8. 本年度聯盟主催の遠泳に就て

小林高志

9. 小學校學童教員の水泳に就て

藤森福

10. 新入會員の自己紹介及び協會強化に關する會員の諸意見の開陳

上に關し實行案作製は幹事一任とし一層協力を計り次年度に其成果を期待することゝなれり。以上

明善水泳俱樂部よりの通信

朝倉三男君投

シーズンの真中で各地方加盟團體の報告や競技會成績の編輯で貴方様は毎日忙がしく御疲れでせう。

合宿も無事終りました。吉報を御知らせしたいのですが部員の不足から遂に昨年の榮冠を奪はれてしまひました。然し部員は意氣と元氣と先生の御手紙通りの練習によつて實力以上戦ひました。本年は私等3人卒業しただけですが、主戰鬥士に病まれ思はぬ敗北を喫したわけです。私等卒業生としても残念ですが御指導にあたられた井上氏や貴方等に對して申わけございません。もすこし先輩が熱心に指導すればよかつたのです。

機關誌「水泳」の讀者欄も締切すぎて本が手に着きましたので何も投書する事が出来ませんでした。

來月號58號には何か寫眞でも送らして戴きます。

私今静岡縣の濱名湖の邊に居ますが、小學校等の水泳の盛んなのを久留米の兒童と比較して1世紀でなく大人と子供の感があります。

福岡縣では公認の兒童水泳大會はない様です。八幡製鐵久留米體協、中學明善校、中學傳習館の4つの水泳部主催の簡單な競技會があるだけです。

私等明善俱樂部は本校主催の學童大會を立派に行ふ義務がありますので、福岡日日新聞の後援を得、又井上茂氏等の指導に基いて昨年第1回を行ひました。水泳着無しでプールが25米2纏で7コースで

すからタイムは比較出来ませんが、1位のタイムは昨年尋男10傑の7、8位にはたいてい入つてゐます

本年は9月4日に第2回大會を開會します。本年の規定はすべて昨年通りです。明年からは福岡水協で公認してもらひ、10傑内に久留米の名をのせ様と思つてゐます。プールが非公認で長さが最短25米1纏最長25米7纏ばかりであり、最淺1米30最深1米80纏で7七コースです。公認してもらへますでせうか。

私も4、5日中に久留米に行きます。そしたらば又新しいニュースや水泳誌に投書出来る様な事があるかも知れません。廿日振りで久留米に歸ると新聞切抜が山程たまつてゐるからいそがしいから阪神の恢復次第歸るつもりです。

最後に水上聯盟の發展と皆様御健康を祈ります
「明善水事務所」久留米市吳服町45 堤浩一方

(8頁より)

それにしても丁度今朝到着した資格證の登録番號は第194號とあり、之から察するに全有資格者は200名と少しではないかと思ふ。1億の國民に對して200や300の指導者では餘りに少な過ぎる。厚生省や文部省邊りでウンと豫算を取つて頂き度々講習會を開き、少くとも年2回位開き、又東京のみならず大阪でも開催されて多數の指導者を養成し、其の指導者達を通じて國民皆泳を實現せねばならぬと思ふ。

(13.7.27記)

第一回團體長距離競泳全國大會

渡 邊 延

1. 經 過

昭和 13 年 8 月 7 日 午前 8 時 50 分 熱海沖 初島に於て開會式舉行

- イ 參加者役員整列
- ロ 宮城遙拜
- ハ 皇軍將士の武運長久祈念
- ニ 西郷會長開會を宣す
- ホ 松澤審判長注意

當日誠に天候不良北東の強風實に 12 米海上は白馬跳り眞鶴岬に覆ひ被さつた黒雲は時々切れることもあるが不氣味な嵐模様で時には雨を交へ風は何時治るとも見えす。初島北岸に熱海に向つて陸から直角に曳いた 70 米の出發線に 28 泳團選



スタートの位置につく選手津（初島にて）朝日新聞社撮影

手がだとり付き 1 線になつたのが 9 時 12 分 9 時 15 分 號砲 1 發一齊に熱海の決勝線に向ひ發泳した、右に嚮導艇中央に目標艇、左に左標識艇を望み、或は「クロール」或は「平泳」を以て 400, 500 乃至 1000 米と進む中にて監察員同乗の各泳團指揮者乗艇及審判並に警戒艇は初島東北尖端より夫れ夫れ指導と任務の位置に就く。

浪の山を 1 上 1 下する泳者の苦勞も大變なれば舟艇上の泳團指揮者と監察員其他の役員も樂でない。

以下中央審判艇の報告を抜萃すれば

10—10 風速 12 米の白浪を右より受けて各泳團とも元氣に力泳中未だ落伍者なし。

先頭は出發點より約 2000 米。

10—36 先頭 3000 米通過、今の處、第 1 位第 10 泳團にして最後尾と 1000 米の差あり。

10—37 第 1 位 4000 米の所通過。

10—51 第 1 位第 10 泳團 5000 米通過第 2 位との差 400 米、最後尾との差 2000 米。

11—03 第 2 位は確實ならざるも第 30 泳團ならん。

11—11 第 2 位乃至第 5 位は差少く接戰中。

11—14 第 4 位 28 泳團は第 3 位 12 泳團を抜きつあり。

11—15 第 2 位は 7000 米通過。

11—24 第 5 位第 5 泳團第 6 位第 22 泳團なり第 1 位より第 5 位までは全部クロール第 6 位の先頭平泳なり。

0—1 第 1 位第 10 泳團、第 2 位第 27 泳團、第 27 泳團は平泳なり。

0—3 第 3 位第 28 泳團、第 4 位第 22 泳團。

0—6 第 1 位より決勝點まで約 2000 米。

0—51 第 19 泳團は乗船せるものの如し。

第 2 泳團及第 19 泳團棄權す。

1—6 第 2 位第 27 泳團、第 3 位第 22 泳團、第 4 位第 28 泳團、第 5 位第 13 泳團。

1—18 第 4 位にありて第 13 泳團と接戰中なりし第 28 泳團は決勝線前 800 米にて疲勞者乗船棄權す。

1—20 最後は靜浦小學校最後まで泳ぐ決心。

1—22 最後の泳團は決勝線より 1800 米にあり。

1—33 第 7 位にありし第 12 泳團棄權、現在第 6 位迄競技中。

以下略す。

海上は益々荒れ模様となり決勝線を間近にして棄權者の續出せることは誠に遺憾である。

かくて全泳者 6 泳團が熱海海岸に設けたる 70 米

の「ゴール」線を突破したその成績は次の通りである。

優勝組（第1着）

佐世保鎮守村泳團（第10泳團）

出發 9—15—0 到着 0—38—4 所要時間
3—23—4

指揮者 山口 榮 次（海軍中尉 28 歳）
泳者 松下 昌 澄（一等兵曹 28 歳）
木須 宗 一（一等水兵 24 歳）
喜田 晴 美（二等主計兵 21 歳）
河野 勝（二等主計兵 20 歳）

坂本 重 信（一等水兵 25 歳）

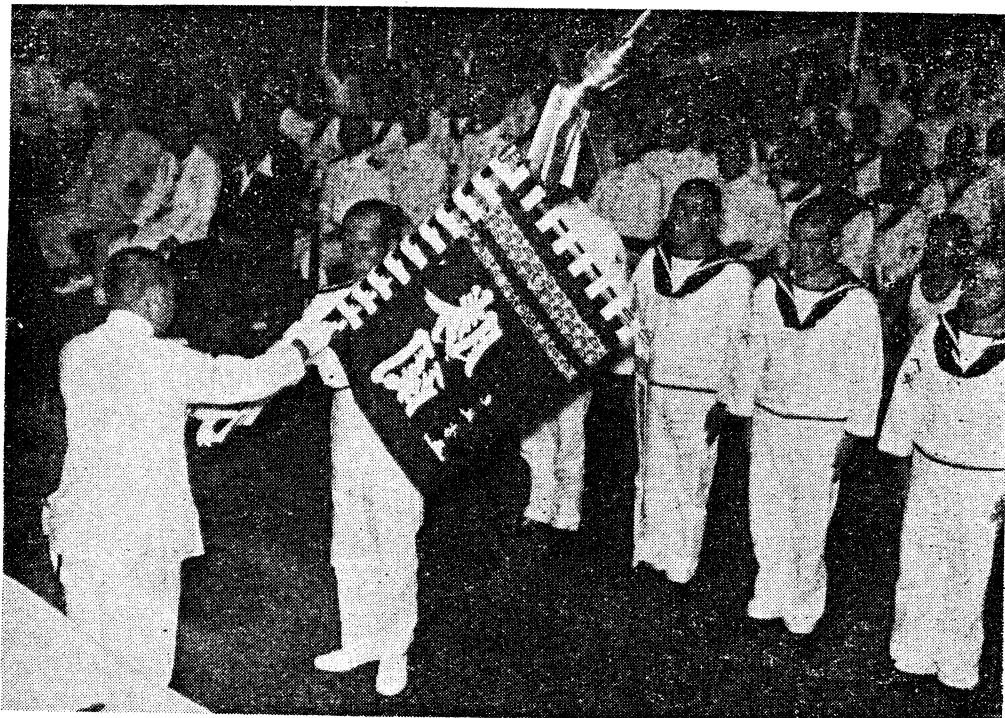
川崎 與 四 郎（同 25 歳）

四等賞（4着）

横須賀鎮守府第4組（第13泳團）

出發 9—15—0 到着 1—33—25 所要時間
4—18—25

指揮者 神崎 永 治 郎（海軍兵曹長 39 歳）
泳者 枳 穀 恒 雄（一等兵曹 28 歳）
國 原 源 三（二等水兵 23 歳）
秋 葉 友 幸（同 23 歳）
五十嵐 七男美（三等水兵 23 歳）



優勝旗を受ける佐世保鎮守府チーム（朝日新聞社撮影）

二等賞（2着）

横須賀鎮守府第2組（第27泳團）

出發 9—15—0 到着 1—2—15 所要時間
3—47—15

指揮者 保 志 茂 雄（一等兵曹 34 歳）
泳者 初 瀬 精 一（二等主計兵 23 歳）
石 谷 直 一（二等水兵 21 歳）
増 田 千 代 藏（二等看護兵 20 歳）

三等賞（3着）

横須賀鎮守府第3組（第22泳團）

出發 9—15—0 到着 1—26—22 所要時間
4—11—22

指揮者 佐 藤 榮 吉（一等兵曹 29 歳）
泳者 小 柴 道 孝（一等水兵 25 歳）
中 井 武（同 25 歳）

五等賞（5着）

横須賀鎮守府第1組（第5泳團）

出發 9—15—0 到着 1—53—4 所要時間 4—
38—6

指揮者 町 田 喜 久 吉（海軍少佐 37 歳）
泳者 渡 邊 泰 二（一等機關兵 25 歳）
岡 部 泰 華（一等水兵 24 歳）
高 橋 純 爾（二等看護兵 24 歳）
鶴 田 耕 助（一等看護兵 23 歳）

全 泳（6着）

熱海青年團日泳會（第18泳團）

出發 9—15—0 到着 2—10—7 所要時間
4—55—7

指揮者 山 田 從 一（會社員 28 歳）
泳者 青 木 森 則（同 21 歳）

大澤政勝（旅館業 21 歳）
町田實（大工職 20 歳）
多田福太郎（無職 18 歳）

同日午後 4 時 30 分市民會館に於て表彰式兼閉會式舉行

- イ 一同着席
- ロ 國家齊唱
- ハ 経過報告並に講評（役員長末弘聯盟會長）
- ニ 參加章授與（同）
- ホ 賞狀授與（會長 西郷侯爵）
- ヘ 優賞牌授與（井上少將……海軍大臣賞「勝鬨旗」
兒玉厚生省體育局長……厚生大臣賞「目錄」）
- ト 會長挨拶
- チ 副會長挨拶
- リ 顧問東郷海軍中將訓辭
- ヌ 顧問井上海軍少將訓辭
- ル 天皇陛下萬歲三唱（會長音頭）

右にて午後 5 時 30 分芽出度散會することとなつた。

2. 講評訓辭

役員長末弘聯盟會長の講評(概要)

(文辭の責は筆者にあり以下同様)

- イ 十(キロ)荒天海上を「クロール」にて泳破せる優勝チームの體力技倆の程感服の至りである。
- ロ 又全「コース」を平泳にて泳破した 2 着の「チーム」の力強さは賞揚に値するものである、距離が更に延長された時のことを想へば状況によりては「クロール」に劣らぬ優秀性を發揮し得るものと思ふ。
- ハ 其他この恵まれざる條件の下に全力を擧げて奮闘せられたることを多とし今後の研磨を祈りて止まず、更に又關係者諸役員の勞苦を深く感謝いたします。

會長西郷侯爵の挨拶(要約)

指揮者の方々がよく意を用ゐて一致團結の効果を擧げられたることは誠に結構なことであり、今後も十分萬全を期する訓練を重ねられて輝き効果を擧ぐる様努められたい又泳者としては此の度の經驗によりて一層明瞭に體力技倆の點につき修練を積むべき指針を得たことと思ふ。帝國將來の爲め本日の行事が寄與する所多大なるを信じ御一同の益々勇健なる御發達を祈るものである。

副會長樋口熱海市長挨拶(要約)

熱海の地にて此の劃期的の大會を實施せられたることに對し深く日本水上競技聯盟に感謝し又此の大會に大に力癪を入れられ色々と御後援を忝ふしたる海軍の選手諸君により海軍大臣賞たる勝鬨旗を獲得せられたることを敬祝し、之に追隨して地元の熱海が全泳を出し得たことは些か又自ら慰むる次第であります。

地元として誠に不行届き千萬であり茲に深く深く皆様に陳謝申上げる次第であります。

顧問東郷海軍中將の訓辭(要約)

自分は水泳は單に泳ぐと云ふだけで素人であるが本日の荒浪を勇敢に泳がれた諸君の競技精神は實に賞揚に値する、しかし海軍では之れ以上の荒浪でも泳ぐ必要があり、諸君も平水ばかりでなく相當に荒浪を征破する訓練を望む、泳ぎのことから他の凡ての事柄に及ぼして大に堅忍不拔の精神を養ひ國家の爲に役立つて下さい。本日の競技に於て 14,5 歳の少年諸君が大人に交つて水泳の技を競つた點等は私の最も快心とする所であります。

顧問横須賀海兵團長井上少將の訓辭

四面海環の我國民は海軍の 1 部のみならず國民全體に水を恐れず皆海に親しむことを希望し之を大にしては海外進出の氣概を養ふの必要ありと考へます。之によつて身體を強健にして國民皆泳水上日本の眞價を發揮しこの元氣を基調として覇を宇内に唱へねばなりません。

3. 各チームの概況

第 1 泳團 沼津中學校

平泳と「クロール」を交へ用ひ 3 分の 2 を泳破したる際 1 泳者腹痛を起し午前 11 時 55 分中止

第 2 泳團 熱田水泳協會

前者同様 3 分 2 のを泳破せるも午前 11 時 35 分中止乗船

第 3 泳團 靜浦小學校

最年少「チーム」にして全「コース」の 9 割を泳破したが午後 1 時 20 分人事不省まで泳ぎ続け、遂に棄權す、泳法は平泳で通した

第 4 泳團 同泳會第 2 組

約 3000 米にて棄權、泳法、平泳

第 5 泳團 横須賀第 1 組

クロールで泳ぐ速力に多少不揃の點があつた腹痛を起したり、ヘバツタ人もあつたがよく全泳入賞した指揮は完全に行はれた。

第 6 泳團 熱海青年團第 2 組

人員不揃で不参加

第 7 泳團 三重高農

クロールで泳ぐ、水を飲み呼吸困難が出来た、足がつつたのは自分で治した、正午 30 米圏外に出づるものあり中止となる。

第 8 泳團 京都水泳俱樂部

相當確實に續泳して 7「キロ」線に來たが漸く疲勞して波の上で眠るものが出来遂に中止した。

第 9 泳團 日本體育水泳協會

全部平泳、腓腸筋痙攣を起したものが出来、距離6500米で棄権、指揮者艇の運行稍敏活を欠き此の「チーム」には氣の毒であつた、之れは船頭の技倆に係り不可抗力と見てよい全く荒天の爲である

第 10 泳團 佐世保チーム

全部美事に浪にくつ着いて強力な「クロール」で通した、ピッチ 56—43 正午頃 1 人弱り出したが強いのが曳泳した

第 11 泳團 焼津水泳團

4000米で棄権、平泳

第 12 泳團 東京基督教青年會樂泳會

午後 1 時 30 分 1 人、痙攣頻發で中止、平泳、クロール混交

第 13 泳團 横須賀第 4 組

時々先頭交代順序よく平泳で通した、1 時 30 分ゴール直前では視力なきまでに疲労して居たものもあつたがよく協力して入賞した。

第 14 泳團 東邦商業學校

平泳と「クロール」の交り、正午過ぐる 7 分 1 人眼が見へなくなつて中止

第 15 泳團 静浦少年團

これも少年揃ひで小學校の生徒ばかり平泳でよく 12 時 20 分までに 8 割以上を泳いだ

第 16 泳團 商泳會第 2 組

各選手の力稍相違してをる點を認める、泳法、平泳午前 11 時 40 分舟に上つた

第 17 泳團 濱寺水練學校

クロール泳法 12 時 50 分疲労者出で棄権

第 18 泳團 熱海青年團日泳會

「クロール」と平泳元氣良好よく好調を保つて全泳した

第 19 泳團 戸山水友會

「クロール」と平泳一泳者痙攣によつて 12 時 40 分棄権指揮者艇の操縦意の如くならざりしこと第 9 泳團の如し

第 20 泳團 京橋商業

12 時 20 分眼が見へなくなつて中止者が出来た、之れも指揮者艇に浸水、其他があつて難義をした「クロール」平泳混交である

第 21 泳團 日泳會第 1 組

人員不揃で不参加

第 22 泳團 横須賀第 3 組

最初眞鶴の方に向ひ 10 時半、熱海に轉向した 12 時頃疲労者が出来たが 3 者大に勵まして協泳した視力は皆鈍つて居た、主として平泳

第 23 泳團 濱名灣游泳協會第 2 組

約 5 分 3 の所にて午前 11 時 20 分、痙攣者を生じ棄権、平泳と「クロール」

第 24 泳團 東京基督教青年團

主として平泳、午前 11 時 35 分 2700 米を残して中止

第 25 泳團 伊東日泳會

「クロール」平泳混交、10 時 20 分 3 分 1 線で中止腹痛者を生じた

第 26 泳團 商泳會第 1 組

潮流に流され魚見崎南方にて停滯加へて疲労甚大遂に午後 1 時棄権、平泳である

第 27 泳團 横須賀第 2 組

平泳にて一貫す、足の痙攣者ありしも皆元氣に頑張り入賞す、指揮者の強剛振り著し

第 28 泳團 静浦青年團

一寸指揮者艇合同に暇取つた、平泳と「クロール」を混用、午後 1 時 14 分ゴールを前にして中止

第 29 泳團 熱海青年團

午前 11 時 30 分 3500 米で腓腸筋痙攣者を出し遂に棄権

第 30 泳團 濱名灣游泳協會第 1 組

12 時 45 分 8000 米で中止は遺憾であつた、全部「クロール」で速力もあつたが波酔者が出来前進不能になり終つた

4. 附 記

大規模な本大會には色々の苦心が伴つて居り夏初めから計畫を立てた幹部の骨折は非常なものである。萬遺漏なきを期しては居たが當日の天候は如何ともし難く散々辛苦を経験することになつた。一々準備其他に關することは列擧に暇なき次第でこゝには省略する、之により今後の計畫には更に緊要なる事項を補つて行けるものと信ずる。本大會が非常に精神作興に資する所があつたので大方の援助を得たが就中海軍の後援につきては深く感謝する所で今後共益々適當なる御支援を望む次第である。

次に今度は醫事部を設けて競技前日及び終了直後に全選手について精密なる身體検査を遂げたことは競技の萬全を期する上に必要ならぬと同時に水泳體育上参考となるべき貴重なる文獻を得たので將來に備へ置くことになつた。

プール競技を一面とすれば海上遠泳は又他の一面であつて國民皆泳を目標に指導普及に關して全力を擧ぐる我が聯盟としては之を機として一層、此の方面に骨を折らねばならぬことになつた譯であり、此の部門擔當の人々に對し絶太なる御努力を願ふものであります。(終り)

■■■■■壯烈なる開會式■■■■■

第一回團體長距離競泳全國大會 の開會式報告

■■■■■N. S. R ■■■■■小林 高 志■■■■■

(西郷會長の開會の訓示役員選手を緊張感激せしむ)

八月七日黎明、熱海海岸の發動機船の集合所に到着せる大會役員は闇を衝いて打寄せる波浪の夜目にも白き重吹に聊か緊張を感じるものあり、熱海市準備委員諸賢の配慮による發動機船も浪にもまれ木の葉の如く、容易には舟着場に近寄れず船夫の努力も仲々なるべしと思惟さる。

可成りの強風にて伊東より廻航豫定の機船は西風に災され遂に出航不能との報により熱海、網代(網代より初島に直行)の兩所に於ける配船を基準に計畫を變更の止むなきに至る。

最小限の競技役員により、競技開始すべしとの末弘役員長の意を體し選手役員一同十數隻の發動機船に分乘、激浪を冒して、初島に向ひしも出發後間もなく、一部選手役員便乗の朝日丸外二隻は航海危険なりとて引返し來り、如何に船夫を説得するもかゝる荒夫に航海は御斷りとして承知せず。事態斯くなる上は競技中止かと一時は悲觀せるも、附近に投錨待避中の埋立會社汽船の好意により役員一同愁眉を開く。

好意による江ノ島丸に便乗せるも途中風浪高く、加ふるに驟雨の來るありて、視界を便ぜず、指呼の間にある初島すら見失ふの狀況にて競技舉行の可否すら、役員間に於て論議さる。

八時五分漸くにして初島裏海岸に到着せるも、先着の役員選手の到着とは一時間餘の時差を生ずる狀況にて船夫のあるもの時化と稱するものさへ生じたるも、選手一同頗る元氣にて役員も大に意を強うす。

食事、休養、出發準備完了後、泳團指揮者を集合、

松澤審判長より競技實施に際しての詳細なる注意、説示あり、午前九時選手役員一同初島神社社前に整列、開會式を行ふ。

一同宮城を遙拜、次に出征皇軍諸子の武運長久を祈願默禱し、國歌を合唱次に大會會長、西郷侯爵閣下より開會を宣せられる。

「役員諸君に申上る。本大會役員の責任は一切會長たる西郷が責任を負ひます。役員諸君は安じて其の信ずる所に向ひ任務を遂行せられたい」

「選手諸君に申上る。選手諸君は役員並に指揮者を信頼し、遲疑逡巡する所なく充分に其の技能を發揮し最善を盡し、海國日本國民の實を示されたい」

西郷會長より此の簡潔なる然も、軍人精神の横溢せる壯烈なる御挨拶を得たる時は一同肅然として感激に不堪す満場聲を呑む。

競技の開始に際し、斯の如く會長自ら責任の歸結を示し、役員を鼓舞せる武士の出陣にも比す可き大會は稀有の事にして、荒れ狂ふ強風の下怒り逆巻く波浪を前にして壯烈と云はんより寧ろ悲壯と稱す可く、自然に涙を覚え、必ずや無事故裡に競技を終始し、豫期の成果を収め、會長の御厚情に御酬す可しと決心せるは豈私一人のみならんやであると信ずる。

欣然、出發線に就ける選手一同は銃聲一發荒天下丈餘の浪を破つて、決勝點熱海に向ふ。時正に九時十五分。

(競技狀況は監察員各氏よりの記録を綜合し報告あるものと存じます)

昭和十三年度クラス選手詮衡第一回発表

日本水上競技聯盟

昭和13年度7月25日現在、聯盟へ報告済みの公式記録より男子選手クラス制を発表する。本年度は恒例の早慶、三大學、以外に第1回の高專大會が舉行され充實した内容を見せ、本クラスでも多くの好記録を見せてゐる。

各選手の成績中、早關對抗、早大對全朝鮮、大阪甲子園で行はれた三大學招待競技會の分は正式報告なき爲残念乍ら割愛した。各地方の責任該當者は競技會終了後直に報告せられんことを切に願ひ致したい。

女子選手は競技少き爲年末にまとめて発表の豫定である。

男子100米自由形

B 58.4	新井茂雄(立大豫)	7.24	神宮	全國高專
B 58.6	佐々木 猛(日大)	6.26	振甫	日大對東海
C1:01.0	田口正治(立大)	6.12	神宮	三大學
C1:01.3	片岡寅次郎(早大)	6.5	神宮	早慶對抗
C1:02.2	長谷川宇佐美(高松高商)	7.16	寶塚	西部高商
C1:02.4	宮崎康二(慶大)	6.5	神宮	早慶對抗
C1:02.4	杉田芳郎(早大專)	7.24	神宮	全國高專
C1:03.0	平野 亮(日大專)	7.23	神宮	全國高專
C1:03.2	高尾龍實(慶大)	6.5	神宮	早慶對抗
C1:03.6	本田武次(立大豫)	7.23	神宮	全國高專
C1:03.6	吉田 實(關大)	6.19	寶塚	大阪學生
C1:04.0	島本耕作(和歌山高商)	7.19	寶塚	全國高商

男子200米自由形

B2:13.4	新井茂雄(立大豫)	7.24	神宮	全國高專
C2:15.4	佐々木 猛(日大)	6.12	神宮	三大學
C2:15.6	高橋 弘(慶大)	6.5	神宮	早慶對抗
C2:16.8	田口正治(立大)	6.12	神宮	三大學
C2:18.4	島本信美(慶大)	6.5	神宮	早慶對抗
C2:19.4	牧野正藏(早大)	6.5	神宮	早慶對抗
C2:19.6	杉田芳郎(早大)	6.5	神宮	早慶對抗
C2:21.8	片岡寅次郎(早大)	6.5	神宮	早慶對抗
C2:22.4	栗原 徹(日大)	6.26	振甫	日大對東海

男子400米自由形

B4:51.8	天野富勝(日大專)	7.24	神宮	全國高專
---------	-----------	------	----	------

C4:51.8	高橋 弘(慶大)	6.5	神宮	早慶對抗
C4:55.8	寺田 登(慶大)	6.5	神宮	早慶對抗
C4:59.0	本間俊夫(立大豫)	7.23	神宮	全國高專
C5:01.2	馬場 止(日大)	6.12	神宮	三大學
C5:02.2	牧野正藏(早大)	6.5	神宮	早慶對抗
C5:02.8	杉浦重雄(早大)	6.5	神宮	早慶對抗
C5:04.0	越戸優一(日大豫)	7.24	神宮	全國高專

800米自由形

A 9:57.8	天野富勝(日大專)	7.24	神宮	全國高專
C10:29.6	本間俊夫(立大豫)	7.24	神宮	全國高專
C10:36.8	栗原 徹(日大)	6.12	神宮	三大學
C10:39.8	越戸優一(日大豫)	7.23	神宮	全國高專
C10:50.0	木村成男(日大專)	7.23	神宮	全國高專

男子1500米自由形

C19:49.2	高橋 弘(慶大)	6.5	神宮	早慶對抗
C20:11.4	寺田 登(慶大)	6.5	神宮	早慶對抗
C20:11.6	片山 崇(慶大)	6.5	神宮	早慶對抗

男子200米平泳

B2:44.0	小池禮三(慶大)	6.5	神宮	早慶對抗
B2:45.2	葉室鐵夫(日大)	6.12	神宮	三大學
C2:48.4	大浦誠一郎(立大豫)	6.12	神宮	三大學
C2:49.2	林田睦夫(日大)	6.12	神宮	三大學
C2:50.4	長久俊三(慶大)	6.5	神宮	早慶對抗
C2:52.0	古川 敏(早大)	6.5	神宮	早慶對抗
C2:52.6	寺田武實(慶大)	6.5	神宮	早慶對抗
C2:53.9	田口 實(日大)	6.26	振甫	日大對全東海
C2:54.0	高原 豊(山口高商)	7.19	寶塚	全國高商
C2:57.6	加藤久男(袋井商)	6.19	濱一中	東海中等
C2:57.8	田畑三郎(京二商)	4.7	甲子園室内	中等合宿(2:53.8)

男子100米背泳

B1:08.6	兒島泰彦(慶大)	6.5	神宮	早慶對抗
C1:10.4	坂本响一(立大豫)	5.15	立大	立大豫對一高
C1:11.6	吉田喜一(早大)	6.5	神宮	早慶對抗
C1:11.6	谷口利弘(日大)	6.12	神宮	三大學
C1:12.8	鷺谷光明(日大)	6.12	神宮	三大學

C1:13.4 河野道廣(日大豫) 7.23 神宮 全國高専
C1:14.0 山本恭之介(早大) 6.5 神宮 早慶對抗

C1:14.6 門屋 桂(立大豫) 5.15 立大 立大豫對一高
C1:14.8 本間竹志(東高師) 7.23 神宮 全國高専

全國高商水上競技大會

東京商科大学水泳部

全國高商水上競技大會も回を重ねて、今年は第6回を迎へ7月19日午後3時より寶塚プールでこれを舉行了。この大會は1校としての優勝校を決定すると共に東西兩部の對抗戦をも兼ねてゐる。結果は例年の如く高松が優勝校の榮冠を荷ひ、西部が壓倒的な大勝を得た。何れ詳細な記録はこの雑誌の終の號に掲載されるであらうから此處では第1位の記録を記すにとゞめる。選手権は盡く西部諸校の獨占するところとなり西部諸校の得點は東部のそれに數倍する。これは東部が舊態の依然たることを如實に示すものであるが、しかし今年は東部3人、西部3人計6人の泳者の内で西部側の選手で位に落ちたものも少なくなかつた。これを西部の沈滞とも呼び得ようが一方東部の努力と向上を認めねばなるまい。

氣温 32 度、水温 23 度

記録 ● 200 米繼泳 高松(西)(抱、船倉、寺石、長谷川) 1分53秒2 ● 400 米自由型、船倉(高松一) 5分17秒4 ● 200 米背泳 山田(和歌山一西) 2分49秒6 ● 100 米自由型 長谷川(高松一西) 1分2秒4 ● 200 米平泳 高原(山口一西) 2分54秒 ● 800 米自由型 船倉(高松一西) 11分11秒2 ● 200 米自由型 長谷川(高松一西) 2分25秒2 ● 100 米背泳 山田(和歌山一西) 1分16秒8 ● 100 米平泳 高原(山口一西) ● 800 米繼泳 高松(西)(抱、谷村、船倉、長命川) 9分57秒2

各校得點 (1) 高松 29 (2) 和歌山 10 (3)

山口 6 (4) 名古屋 4

東西對抗 117—59

銚 後 美 談

(一)

天野君の世界記録樹立には色々な美談が織込まれてゐる。田畑評議員はもう2、3日前から張り切つて、日大の人から情報を手に入れたり、世界記録を年鑑から書寫したり、ボルグと北村のラツプを調べるやら、まるで自分の事の様にせはしく立まはつてゐる。當日になると大好きな煙草もさかえとラツキストライクを買つて縁起をかつぐ、之でよし天野に世界記録が出なかつたにしても同氏の銚後美談こそ立派な世界記録となつてゐたであらう。その後堂々たる18分臺の大記録を出してプールから上つて來た天野君をとらへて田畑氏は文字通りに手も千切れるばかりに握手をした。まるで世界記録同志が握手をしてゐる光景であつた。

(二)

天野君の大記録のかげにかくれてゐたが新井君の

200 自由における2分9秒6の大記録もすばらしい大収穫だつた。メヂカの短水路記録が2分7秒2なので之を長水路に換算するため田畑さんプールの圖をかいてえーとターン1回1秒だから200だから5回分を足すと實力12秒臺になるんだと納得の行く迄新井君の世界最高記録に輝かしい箔をつけてアナウンス直前の數刻の同氏はまるで亡き飯田さんの靈がのりうつつた様に忙しかつた。

游 泳 部

新井君とか天野君がわけもなく世界記録、日本記録を5つも6つも出したので「ウン我が競泳部は今日から游泳部と名を變へて遠慮したがよからう」と



高専飛込大會をみて

高橋庄之助

小柳富男 後踏切前飛蝦形
(NSR. 柴田隆二)

選手の足らぬ各學校に於ては新人養成と云う事は事有る度に頭をなやまして居つた事だらう。其して此の新人を如何に活用させるかと云事も相當考へて居つた事だらう。一番活用の出来るのは唯全國學生大會の新人飛込大會が年に一度有るだけで後はなく誰しも何にかの方法で飛込新人競技會を開催する事を考へて居つた事だらうと思はれる。それが此度全國高等專門學校水上選手權大會が開催されたと云ふ事は飛込界に對して如何に有意義で有るかと云ふ事は今更云ふに及ばぬ事有らう、又同時に出場選手の多かつたと云ふ事は喜ばしい次第で有る、高飛込に出場者の少なかつたと云ふ事は決してとるに足らん事有らう。競技前の豫想としては早大専門部と日大専門部との優勝争とは思つて居つたが選手の數の多い日大専門部に分が有るものと考へられたが結局3米飛技飛込と高飛込に瓶子(早大專)が一位を得、又、永原が1米飛板にて4位を得、計17點を取り又日大専門部は1米飛板にて9點を取り3米飛板では8點を取り計17點を取り同點たりしも1位の數

の多い早大専門部が優勝を獲得してしまつた日大専門部の敗因は細谷が常に出場して居る高飛込に出場しなかつたと云ふ事有らう。第1日目の高専大會故競技気分は薄かつたが年を重ねると共に選手の質も向上し競技気分も増してくる事だらう。

次に日を變へて飛込の各種目より見れば二三の選手は非常に進歩して居る様に見受けられる、それに引き變へA・Bクラス級の選手は進歩がなくむしろ退歩して居るものと思はれる。

飛板飛込に於ける1位の瓶子(早專)は常に大きな大膽な飛込をしておつたが、過去の試合には最後の入水にて常に失敗をしておつた、今度は此の高専大會に於て初めて實を結び非常に良い飛込をしておつた。そして彼はもつと強い腰を持つて居つたならば體全體のしまつた美しい飛込をするので有らう大いに自分にて腰を強くする補助運動をすべきで有る又彼の種目の内他の種目を比べて落るのは後踏切前飛の種目で有らう。此の種目の踏切を大いに研究すべきで有らう。又高飛込に於ては實に美事で有つた。唯最後の後宙返り1回半(伸)に於て失敗した故100點を越えなかつたと云ふ事は實においしい事有るが君の様な選手が1種目を試合當日まで飛ばなかつたと云ふ事は不覺ではなかつたらうか2位の森(日專)は最初の大い試合に於て2位に這入つた事は偉大なもので有る森君の更に大膽な踏切は非常に良く感じた、君の2位はあの踏切に有つたと云つても過言ではなからうと思はれる、種目全體も相當こなして居つたが飛込には若い故體全體のしまりとか手の位置と云ふ事はかけて居つた。併未だその様な小さい處に頭をおかず大いに先輩柴原君の様に數を飛び練習すべきで有らう、唯前逆飛の種目を試合には失敗しておつたが未だ踏切の確實と云ふ事がかけておるのではなからうか、又此處に一言御注意を申し上げたいのは先輩と共に大いて練習をし先輩の良き處を取り入れ悪き處を棄てるべきで有らう。其の一例としては柴原君の最後のステップに於て足を前に投げ出すあの悪いくせが幾分森君にも這入つて居るのではなからうか、君も將來を背負ひ立つ人で有らう大いに體の美しさを本として練習をされたい。

3位の加茂君(早高)は3米飛板と高飛込に出場したが非常に良く飛んだ種目と非常に下手な種目とが有る、點數にして4點以下の種目が有る、例へば飛込に於ける後飛(蝦型と逆立中抜飛の様に非常に差が甚しい後飛蝦型などは少々手の位置が如何と思はれたが、今迄の後、飛蝦型、中一番美しい飛込ではなかつたらうか、それに引き變えまつたく失敗に

終つてしまふ様な種目を持つておると云ふ様な處から考へて見ると結局論に走りすぎ又精神力の不足から來るもので有らう。誰しも君を批評する時には口をそろえて天與の體力と均整美に恵まれた體格の所有者だと云つて居る。その天與の均整美を飛込に現はしたのは 10 米の後飛蝦型で有らう。君はあの種目を如何なる練習又如何なる精神力で創り出したかその氣分を高飛込と云はず飛板にも出して欲しい、併し早慶戦以後の進歩は偉大なものが有る。

4 位の細谷(日事)は常に 100 年 1 日の如き飛込をして居る、又その反面飛込は崩れんと云ふ事もある、以上の處より一言苦言を呈したい。試合には常に 4、5 位に這入つて居る、併し飛込界へは次の様な認識を與へて居るのではなからうか「細谷君はあれでよいのだ」と云ふ様に自他共に許して居る様な認識を與へて居るのではなからうか、それでは君の飛込を他人もそれ以上に發達させてくれず又自分も今の飛込に満足すると云ふ事になるのではないだらうか、君に此の様な事を望むと云ふ事は無理かも知れないが現在の飛込界は幾分停退して居る様に見受けられる此の時に飛込選手全部の手本となり君は其の認識を君の努力により打破つたならば一般選手への非常な手本となるのではなからうか。

5 位 6 位の橋本佐藤兩君は共にすなほな飛込をして居り良い感じを受けたが空中に於ける動作の力の抜き入れと云ふ事を考へたならばもつと美しい飛込になるのではなからうか、そして若き諸君は同じ程度の飛込練習の友を得ると云ふ事は非常に練習の勵みになるので有らう。幸に貴兄等は飛込練習の友を

持つて居り非常に幸福で有る故大いに練習をされたい。

次に 1 米の方も批評すべきで有るが 3 米に出場して居る人と同じ人で有る故略す事にする。併し高専大會飛込競技には 1 米飛込競技は不必要ではなからうかと云ふ事も考えられる。3 米に出場した同一の選手が又 1 米に出場して居ると云ふ事は時間的にも非常に考慮すべき事ではなからうか、もし規定飛込が變り新人が出場し得ぬと云ふ事が次の高専大會より有るとしたならば規定飛は今年と同じものを使用してもよいのではなからうか大いに考慮すべき事で有らう。

前號に於て生徒君が云つて居る様に 8 點の飛込も有れば 4 點の飛込も有るこれは飛込發達の損失で有る、又 1 種目年 1 點進歩主義と云ふ事は誰れしも同感の事で有らう。これは選手諸氏の自覺が足らんと云える、其の自覺と云ふ事で次の様な話が有ります。

「飛込の選手は自覺が足らん、困つたものだと話をするすると飛込では今頃自覺などと云ふ事を云々して居るのか、それでは發達が後れる」と云ふ様な話が有るのです。

次の時代を受ける高専の選手諸氏は大いに日本飛込の世界進出と云ふ事を考慮され練習されん事を望みます。

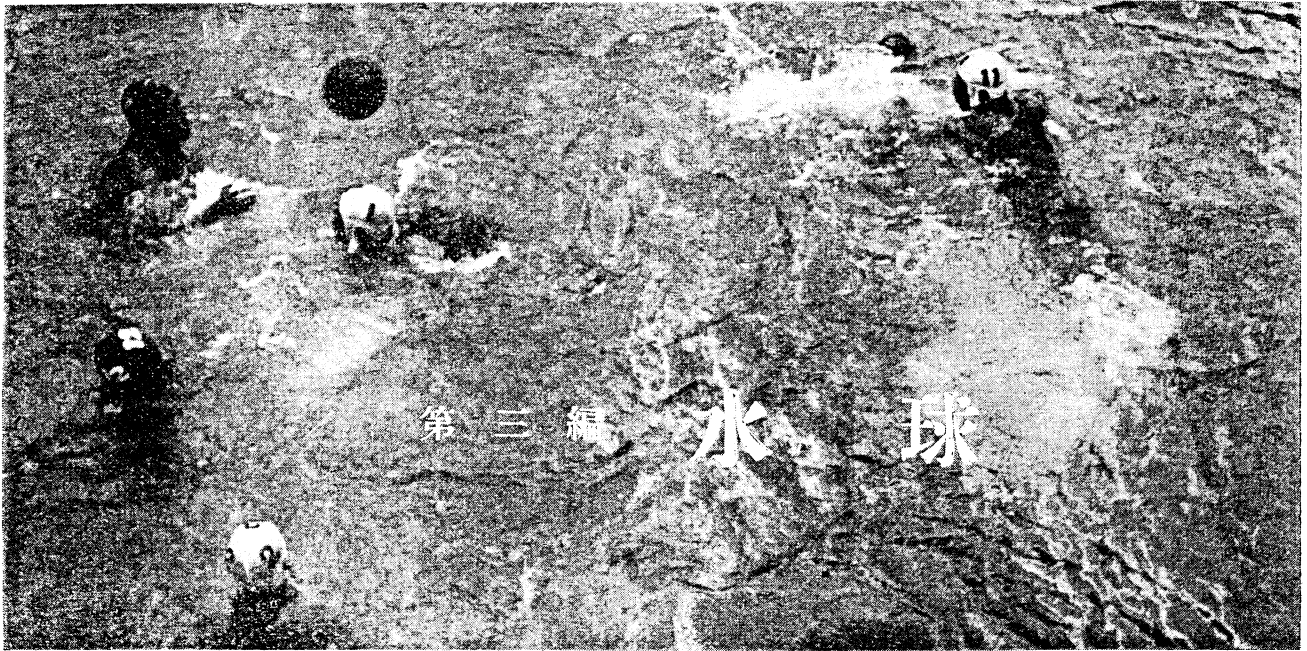
飛込の批評となると常に選手諸氏へ苦言を呈す様になります飛込發達の爲め苦言を呈し批評に變へたいと思ひます。

以上

6 月以降公認プール

測定委員會發表

No. 80	前畑、小島兩嬢優勝記念プール	25 m	No. 84	長崎高女水泳場	25 m
	和歌山縣橋本町	13 年 6 月 3 日		長崎高女内	13 年 7 月 15 日
No. 81	廣島文理科大學プール	25 m	No. 85	東京電氣無線プール	25 m
	廣島文理科大學内	13 年 6 月 8 日		川崎市	13 年 7 月 15 日
No. 82	高崎水泳場プール	50 m	No. 86	伊勢崎水泳場	25 m
	高崎市	13 年 7 月 13 日		伊勢崎町	13 年 7 月 27 日
No. 83	池田町プール	50 m		再公認	
	徳島縣池田町	13 年 7 月 14 日	No. 26	名古屋振甫游泳場	50 m
				名古屋市	13 年 7 月 15 日



第三編 水球

第十一回オリンピック伯林大會

日本代表水球チーム

コーチ	松本隆重			
主將	阪上安太郎			
選手	高橋善次郎	勝久重隆	片岡寅次郎	高木茂雄
	田野耕清	和田幸一	若山瀧美	前田倍三
	古莊次平	高橋三郎		

承前第二

若山瀧美

征旅遠く伯林へ戦はんかなの意氣に燃えながら旅立ちましたが四歳の雌伏も敢えない夢と破れ、戦ひは時の運とは言へ、唯一度の勝運も掴み得ないで皆様様の期待に背き面目ない氣持で一杯です。この雪辱は彼等に勝つ以外に何も求められるものではなく、私は苦い經驗を記して雪辱のための報告に代へたいと思ひます。

私達の最も大きな缺點はチームの統制が十分に行はれなかつた事であります。私達は同じ過を屢々繰り返して失敗しました。例へばバツクから一人ドリ

ブルで突込んだ場合、誰か歸つてその缺を補はなければ逆襲を受けた時には簡単にやられてしまふ。それも攻撃力の弱い我がチームにとつて逆襲されることが多いと云ふ事は良く分つて居た筈であるのにチームとしてそれが十分に行はれず失敗を繰り返してしまつた。これは個々の動きがチームとして統制されなかつた結果に外ならぬと思ひます。ゲームの結果は平素の訓練が現はれるものです。然も伯林到着後一ヶ月に渡る練習中前記の缺點は直ぐに分つて、その矯正に練習は積んだ筈です。にも拘らず結果は失敗を繰り返してしまひました。チームとしての練習が効果を齎さなかつたと云ふ事は個々の意志がチ

ーム統到のコーチの命令よりも強かつたと云ふより外はなく、此處に團體競技の根本的な錯誤を犯したと云つて過言ではありますまい。若しも日本に於ける水球競技者層の底に強い個々の集りが強いチームを構成すると言ふ氣分が流れて居るとしますと、これは斯技發展の妨害をなすものとして理屈でなしに實際に行はれるように出直さなければなりません。こゝに於て私はコーチ制度の確立を強調せざるを得ません。チームの意志はコーチに在つて命令は一つあるのみ。個々の強さはチームを如何に強くするか依るものである事を明瞭に徹底させなければなりません。勿論名コーチも突然生れるものではありません。良いコーチは良いプレイヤーと共に生れるものでありまして、我々は先づ良いコーチを生む可く良いプレイヤーにならねばならないと痛切に感じました。異なる命令があつてはチームが一つに纏ることは出来ません。迷ふばかりです。議論は寧ろす可きですが、實行するのはコーチの命令一つであると言ふ事がチームにとつて最も大切なことです。少くともオリンピックに強チームを組織するには聯盟は徹底したコーチ制度を確立す可きでせう。

次にバツクとして得た經驗を記して見ます。バツクとしては先づ、マークですが體格の差と言ふハンディキャツプを補ふためには體で争ふ前にボールを奪ふ事を考へなければなりません。そのためにはゴール直前に於ては常に敵の前或はゴール側の横にマークす可きです。最も悩まされたのはフローティングフォワードに對するマークです。素早いモーションと正確なシュート、實に紙一重の差で一瞬に決められます。それでフローティングフォワードに對しては味方の攻撃の場合に於ても逆襲に備へて絶対にマークを離れる事は出来ません。更に獨逸のシュナイダーはタツクルにされる事は豫定の事としてボールが手に觸れて居れば體は沈んでゐても思ふ儘のシュートをしこなせるだけのテクニツクを持つてゐるやうなわけで進んでボールを取る以外に安全な防禦は無いわけです。兎に角フローティングフォワードのマークは如何なる場合にもガツチリマークしてゐなければなりません。又ガツチリマークして居ても絶好のパスが行つた時などは體格の差でタツクルしても問題にならない場合もありました。これを防禦するのは先へ沈めてしまふか良いパスさをせない事です。でありますから防禦もチーム全體の防禦でなければ駄目で良いパスを妨げ更にボールを奪ふ可くマークを積極的にしなければなりません。良いパスが自由に出来るフリースローは絶

好のチャンスです。日本ではフリースローを重大視して居ませんが、そのため最初は度々失敗を重ねました。反則後一寸氣の緩んだ瞬間直ぐに正確なパスがフローティングフォワードに渡りタツクルした時にはもう決められた後で、まるで見てゐた様な結果になりました。

最後に我々のパスの拙劣であつたことです。彼等がフォワードに送つたパスに比して我々のパスは不確實で適時を逃し折角のチャンスを逆に敵のチャンスにした事が多くパスと名附けられない程度であつたと思ひます。ボールワークに就いては大人と子供程の差があつたのでありまして器用だと自稱する日本人として基礎からやり直せば彼等以上にやれない筈はなく大きな長所を活かす可く注意する必要があると思ひます。

簡單ではありますが以上報告致します。

和田 幸一

今回第十一回オリンピックに水球軍の一員として派遣され、其の中心であり諸強國の網羅されて居る歐洲を一巡し戦を交え其れに照し合せ我が國水球界の現状並に將來に對する方針をいさゝか私の感じたまゝに簡単に述べて見たいと思ひます。

我々のチームは水球リーグで優勝した一校に他の學校の優秀な選手をピツクアップして編成せられたものでありますが、歐洲に於ける總べてのチームは社會人を以て成つてゐる事です、即ち此處に經驗精神、團結の點が勝つてゐる事です。

而し乍ら我國では社會状態に照し合せて其れが出来ぬものとしたならばやはり學生を中心に編成せねばなりません。今回のチームは經驗、精神、團結の點に缺けた所が多い様に思はれました。水球が團體ゲームの一つである以上、其れを補ふのには次のオリンピックには是非、少くとも二年前或は状態の許す限り直ぐに四年後に備へてチームを作り練習を行はねばなりません。然らざる限り「眞に纏り有る」即ち精神上技術上又經驗は勿論一つの纏つたチームを作らぬ限り、ロスアンゼルス、ベルリンと二大會になめさせられた苦杯を又三度味ふ様な事にならうと思はれます。

次に細かい所を二三擧げて見ようと思ひます。

1. 我が國のチームの特長であり生命であるスピードは歐洲各國チームより遙かに勝り乍ら何故得點出来ぬか。其れはやはりチームのコンビネーションが良く行はれなかつたのと、ハンドリングの悪い所に大きな原因がある。

ものと思はれます。

2. 又一般に日本人は外國人に比べて體力が著しく劣つて居りますから、此れ等の事を念頭に置いて次回のオリンピックチームを作らねばならぬと思ひますが、如何に體力の勝れた者を集めても到底外國人に及ぶものではありません。
3. 然らばかゝる缺點を何に依つて補ふか。それにはやはり歸する所は良きチームであり、コンビネーションとスピードとハンドリングを確實に備へたチームを作ることにあらねばならぬと思ひます。

以上の諸點を完全にマスター出来たならば必ずや次回オリンピックには水球として日本の名を擧げる事が出来ると信じます。 以上

古 莊 次 平

想像して居たより以上に歐洲に於ける水球の人氣は大したものだつた。どんな田舎のプールへ行つても立派なゴールの設備があり、面白相にボールを弄んで居る。これぢや全く強い筈だと思ひながら日本も早くあんなになつたらと羨しくさへなつた。全く水上日本も恥しい次第だ。

もう少しは何とかなるだらうと思つて居た試合も完全に敗れて、其の敗因をあれかこれかと色々考へて見たが結局「日が浅い」と云ふ事になつてしまつた。いづれ細々した事は御年寄りに御願ひして小生は小生の報告を書きたいと思ひます。

伯林に着いた二日目即ち七月五日午前の練習の時だつた。シベリアの列車内で痛めた左手を氣にしながら右手だけで練習して居た。どうせ俺は怪我してゐるんだからと云ふ腹があつたんだらう。つい緊張を缺いた爲に右親指を突指して内出血し、其の爲に其の後の數日はたゞ水を見ては勇み立つのみであつた。手にさわつて見てはまだかまだかと毎日そればかり氣にして居た。初めの内は飯さへ思ふ通りに喰べられずどうなる事かと心配した。

七月廿三日の對スパンダーの試合が小生の初練習であり初陣であつた。それ以後は毎日正規の練習に参加した。然し急に手の痛みが快くなつたわけではなく、一寸したシュートの時でさへ右手は一人で引込んで居た。

練習に行く時はゴムの様な糊帶で指を動かないように固く縛り付け、練習から歸ると直ぐに濕布をしてゐた。實際右手の痛みのみ連日續いた。

試合は日に日に迫り、不安は愈々増して行く、氣だけ焦慮つても調子は更に出なかつた。でも練習の

時は出来るだけ痛みを忘れようと努力した。チームの氣分に關しては悪いと思つたからだ。

日本に居る頃確に止めて居たシュートが、どうしても駄目、注意された通りにパスしようと思つてもどうも思ふ通りに行かず、自分を情無く思つた。そして試合も愈々切迫し「外國のキーパーは上手だ。あんなのが日本に居たならば」と云ふ言葉を聞くやうになつてしまつた。

神經質になつて居た當時の事だ、自然と一人でいじけて行つた。勿論悪い意味に解したのではない面目なさで一杯だつたのだ。悪い意味にでも解釋出来る元氣が欲しかつた程だ。その後の試合迄の二三日は只もう何とかして見たい一念だけだつた。

八月八日對チエツコ戦も平常の通り手に糊帶を巻きつけたまゝで出場した。其の戦ひの最中「やつぱし駄目だな」の聲を耳もとで聞いた。日本では何時でも聞き慣て居た言葉だ。そしてその度に發奮しては練習を續けてゐたのだ。然し其の時の一言は流石に身に染みだ。濟まんと云ふ責任感で一杯になり、其のためにすつかり精神にチエツコに押された。其の結果はやはり駄目だつた。

當時は夢中だつた。そしてやれる事は全部やつて戦つた筈だつたが、今から思ひ直して見るにやはり精神の力が缺けて居たやうな氣がしてならない。

七 千 人

指導者講習會試験に合格された電機學校の田中登先生大へん嬉しかつたとみへて感激の挨拶をされて「僕の學校には七千人の生徒がゐます。免狀は田中一人がもつたがこれをもつて七千人の生徒に水泳を教へるとすれば、田中一人の免狀は七千人に與へて下さつた免狀となる。及ばず乍ら國民皆泳の趣旨を徹底する」と頼もしい一言——尙、同氏は本號に寄稿されてゐます。

支 那 の N・S・R

戦線の島崎氏からの便りに「支那にもN・S・Rがあるのでびつくりしたが、しらべてみたらそれは Nanking, Shanghai, Railway (南京、上海鐵道) の略號でした」と。流石同文同種の國柄だけある。

第14回關東學生水球選手権 リーグ戦報告

東京帝大水泳部 川 田 稔

昭和13年5月21日午後1時、春の水球界の先陣を承り、我が關東學生水球リーグ戦が開會された。その主なものは先づリーグ戦開始に先立ち、リーグ加盟校の練習方法を確立すべく、4月21日より30日まで、東大プールに於て古莊次平氏及びナショナルチームメンバーの諸選手の指導の下に合同練習會を催した。この効果は特に著しいものがあつた。第二にリーグ加盟校の増加である。即ち青山學院を新に加へて加盟校總數18校となり、第三に、從來2部制で66試合であつたものを、3部制に改め、將來更に發展する時を豫想して部制の基礎を確立した。即ち部は6校を以て編成し、新加盟校は最下位の部に參加し、最下位の部が10校に達した時は之を分けて更に1部を設ける事と定めた。而し今年は色々の事情で、1部7校、2部6校、3部5校とし、明年より1部6校制とす可くリーグ戦終了後昇格挑戦試合を行つた。第四に特筆す可きは水球コーチの招聘である。伯林大會に於てドイツを破り華々しく優勝したハンガリー軍の生みの親とも言ふべき、フリードリツヒ、フロイント氏が6月1日より丸10日間ナショナルチーム及び關東學聯の選抜チームを指導された。同氏は終始變らぬ熱意を持って指導に當られた。そして、置土産として色々の忠告を與へて行かれた。而し残念なことに、同氏の來朝がリーグ戦の最中であつたために各選手はリーグ戦に對する練習と、一方にナショナルチーム或は關東學聯チームとしての練習を課されたために十分なコーチを受けられなかつた。

これ等の對内的強化と平行して對外的には水球の一般普及を目的とし、5月29日の公開試合或は6月12日初の水球實況放送（早慶戦）を行ふなどで、大いに活躍した。

この結果總體に水準が著しく高まり2部、3部に於ても意外の好試合が續出した。かくして6月19日リーグ戦終了後、1部第6位校明治大學對、2部優

勝校文理科大學、2部第5位校府立高校對、3部優勝校成城高校の昇格挑戦試合を最後に6月25日成功裡に大會の幕を閉じた。

以下に各戦績を記し諸兄の御批判を仰ぐ。

5月21日(土)

東京高等學校	5	{ $\begin{matrix} 2-0 \\ 3-1 \end{matrix}$ }	1	東京商科大學
法政大學	2	{ $\begin{matrix} 1-4 \\ 1-5 \end{matrix}$ }	9	東京文理科大學
日本大學	12	{ $\begin{matrix} 4-0 \\ 8-0 \end{matrix}$ }	0	拓植大學

森原幸彦	佐々木猛	平野亮	} F.W. {	井出及之	野島善丸	中島善丸
林田陸夫	葉室鐵夫	川田洋二		} T.B. {	和田武二	岩崎鬼三
田口實			G.K.		時尾守	

審判員 武藤米三

東京帝國大學	2	{ $\begin{matrix} 1-2 \\ 1-1 \end{matrix}$ }	3	立教大學
--------	---	--	---	------

寺田速雄	中島了勳	圖師忠	} F.W. {	鶴岡榮	新井茂兼	大崎定兼
川田稔				} H.B. {	上山茂穗	
富田國男	河野日出雄		} F.B. {		田口正治	市野重治
八木昭一				G.K.	山中徹二	

審判員 中西義二

早稻田大學	16	{ $\begin{matrix} 6-0 \\ 10-0 \end{matrix}$ }	0	明治大學
-------	----	---	---	------

小野四郎	越川大壽	豐島大六	} F.W. {	大城戸茂	豐島吉友	藤堂友藏
武藤崇	永見達明	山本達雄		} F.B. {	山口正保	太田光春
川島弘			G.K.		野口務	

審判員 川田稔

5月22日(日)

東京商科大學	6	{4—0 2—2}	2	法政大學
第一高等學校	8	{3—1 5—0}	1	府立高等學校
東京高等學校	3	{1—1 2—1}	2	東京文理科大學
立教大學	17	{10—0 7—0}	0	拓植大學
鶴岡新大	}	F.W.	{	井山及三
井崎茂雄兼				佐野健丸
上山茂穂	}	H.B.	{	岩崎鬼三郎
川口正治				河野州博
市野重二	}	G.K.	{	村上七三夫
山中徹二				時尾守
審判員 新聞六柄				

慶應義塾大學	23	{12—0 11—0}	0	明治大學
松本司郎	}	F.W.	{	豐島吉藏
和田幸一也				藤山友生
大前寛	}	H.B.	{	武藤米三
中村勇夫				大城戸繁
石原正	}	G.K.	{	田中幸雄
岡田平太郎				田中幸雄
審判員 三橋達郎				

早稻田大學	7	{4—0 2—0}	0	日本大學
小野四郎	}	F.W.	{	森原幸彦
越川六壽炳				佐々木猛亮
奧田精一郎	}	H.B.	{	林田陸夫
永見達明				葉室鐵洋
川島弘	}	G.K.	{	田口實
川島弘				田口實
審判員 佐々木秀一				

5月28日(土)

慈惠會醫科大學	1	{0—4 1—1}	5	中央大學
成城高等學校	18	{9—0 9—0}	0	國學院大學
第一高等學校	5	{1—0 4—3}	3	東京高等學校
東京帝國大學	16	{7—0 9—0}	0	拓植大學
小出義彦	}	F.W.	{	中島善丸
中島了				和野健武
川田稔	}	H.B.	{	時尾守
河野日出雄				岩崎鬼三郎
富田國男	}	G.K.	{	井出及三
八木昭一				井出及三
審判員 鶴岡榮				

日本大學	12	{5—1 7—0}	1	明治大學
川田洋二	}	F.W.	{	山田正薰
森原幸鐵				山口戸繁
林田陸夫	}	H.B.	{	武藤米三
平野亮				藤堂友吉
田口實	}	G.K.	{	野口務
田口實				野口務
審判員 古莊次平				

慶應義塾大學	7	{3—0 4—0}	0	立教大學
松本司郎	}	F.W.	{	鶴岡榮
和田幸一也				新井茂定
石原正	}	H.B.	{	上山茂穂
中村勇夫				田口正重
岡田平太郎	}	G.K.	{	大浦誠一
岡田平太郎				大浦誠一
審判員 三橋達郎				

5月29日(日)

成城高等學校	7	{3—0 4—0}	0	慈惠會醫科大學
府立高等學校	2	{1—3 1—3}	6	東京商科大學
第一高等學校	1	{1—3 0—1}	4	東京文理科大學
明治大學	4	{1—0 3—0}	0	拓植大學
山田正友	}	F.W.	{	中島善丸
藤堂吉藏				和野健武
豐島繁	}	H.B.	{	時尾三郎
大城戸米三				岩崎鬼三郎
野口務	}	G.K.	{	井出及三
野口務				井出及三
審判員 新聞六柄				

慶應義塾大學	6	{3—0 3—1}	1	日本大學
松本司郎	}	F.W.	{	川田洋二
和田幸一也				森原野亮
石原正	}	H.B.	{	葉室鐵夫
中村勇夫				葉室貞夫
岡田平太郎	}	G.K.	{	田口實
岡田平太郎				田口實
審判員 富田巖衛				

早稻田大學	7	{3—1 4—0}	1	立教大學
豐島大六	}	F.W.	{	鶴岡榮
越川四郎				本間俊夫
小野精一郎	}	H.B.	{	上山茂穂
奧田達明				田口正重
永見藤島弘	}	G.K.	{	大浦誠一
永見藤島弘				大浦誠一
審判員 古莊次平				

6月4日(土)

慈惠會醫科大學	8	$\left\{ \begin{matrix} 4-0 \\ 4-0 \end{matrix} \right\}$	0	青山學院
中央大學	16	$\left\{ \begin{matrix} 4-0 \\ 12-0 \end{matrix} \right\}$	0	國學院大學
東京商科大學	0	$\left\{ \begin{matrix} 0-4 \\ 0-2 \end{matrix} \right\}$	6	東京文理科大學
早稻田大學	14	$\left\{ \begin{matrix} 7-0 \\ 7-0 \end{matrix} \right\}$	0	拓植大學
壺田重三 河野一民 豐島大六 山本達雄 吉田三郎 川島弘		F.W. { H.B. { F.B. { G.K. {		本川八郎 佐野健吾 中島善丸 時尾守 岩崎鬼三郎 河野州博 井平及之
審判員				川田稔

立教大學	11	$\left\{ \begin{matrix} 4-0 \\ 7-0 \end{matrix} \right\}$	0	明治大學
鶴岡榮 新井茂雄 大崎定兼 上山茂穂 田口正治 大浦精一郎		F.W. { H.B. { F.B. { G.K. {		大城戶繁義 豐島吉藏 永山喜一 藤堂友生 武藤米三 野中幸雄 野口務
審判員				小出靖彦

東京帝國大學	2	$\left\{ \begin{matrix} 1-0 \\ 0-1 \\ 0-1 \\ 1-0 \\ 0-1 \\ 0-4 \end{matrix} \right\}$	7	日本大學
小中義 圖島了 川田稔 河野日出雄 八木昭一		F.W. { H.B. { F.B. { G.K. {		森原幸彦 平野洋二 川田陸夫 林田貞夫 葉室鐵夫 葉室鐵夫 田口實
審判員				笹島彦次郎

5月5日(日)

日本大學	2	$\left\{ \begin{matrix} 2-0 \\ 0-0 \end{matrix} \right\}$	0	立教大學
川田洋二 平野幸彦 森原陸夫 林室鐵夫 葉室貞夫 田口實		F.W. { H.B. { F.B. { G.K. {		鶴岡榮 新井茂雄 大崎定兼 上山茂穂 田口正治 市野重 大浦精一郎
審判員				小出靖彦

東京帝國大學	2	$\left\{ \begin{matrix} 1-0 \\ 1-1 \end{matrix} \right\}$	1	明治大學
小出義 圖師元 森元		F.W. {		山田薰 山口正友 藤堂友生
川田稔		H.B. {		豐島吉藏
河野日出雄 富田國男		F.B. {		大城戶繁義 武藤米三
八木昭一		G.K. {		野口務
審判員				廣瀬

6月11日(土)

國學院大學	1	$\left\{ \begin{matrix} 0-3 \\ 1-3 \end{matrix} \right\}$	6	青山學院
中央大學	5	$\left\{ \begin{matrix} 2-1 \\ 1-2 \\ 0-1 \\ 1-0 \\ 0-1 \\ 1-0 \\ 0-0 \\ 0-1 \end{matrix} \right\}$	6	成城高等學校
府立高等學校	2	$\left\{ \begin{matrix} 2-0 \\ 0-3 \end{matrix} \right\}$	3	法政大學
第一高等學校	1	$\left\{ \begin{matrix} 1-2 \\ 0-0 \end{matrix} \right\}$	2	東京商科大學
慶應義塾大學	19	$\left\{ \begin{matrix} 9-0 \\ 10-0 \end{matrix} \right\}$	0	拓植大學
五百木貞三 齋藤巳智男 渡邊一郎		F.W. {		本川八郎 河野州博 野健吾
千田靜三郎		H.B. {		時尾守
河原田篤 石原正		F.B. {		岩崎鬼三郎 平尾俊一
小川道郎		G.K. {		鈴木宏
審判員				三橋達郎

早稻田大學	8	$\left\{ \begin{matrix} 1-1 \\ 2-2 \\ 3-0 \\ 2-0 \end{matrix} \right\}$	3	東京帝國大學
小野四郎 越川壽六 新間六		F.W. {		小中義 圖師了 島稔
奧田精一郎		H.B. {		川田稔
永見達明 河野一民		F.B. {		河野日出雄 富田國男
川島弘		G.K. {		八木昭一
審判員				佐々木秀一

東京高等學校	7	$\left\{ \begin{array}{l} 4-1 \\ 3-0 \end{array} \right\}$	1	法政大學
早稻田大學	1	$\left\{ \begin{array}{l} 1-1 \\ 0-1 \end{array} \right\}$	2	慶應義塾大學
小野四郎 新間六 越川六	}	F.W.	{	松本司郎 本田幸一郎 名取正也
奥田精一郎				H.B.
河野一民 永見達	}	F.B.	{	大前寛夫 中村勇夫
川島弘				G.K.
審判員				小出靖彦

太田光春 山口正保 藤堂友生	}	F.W.	{	荒木雄二 津達竹志 本間
豊島吉藏				H.B.
大城戸繁義 武藤米三	}	F.B.	{	和田吉左衛門 西田剛
野口務				G.K.
審判員				小林隆繁

リーグ戦並昇格戦の結果、一部；慶大、早大、日大、立大、帝大、文理大、二部；明大、拓大、東高、一高、商大、法大、三部：

6月18日

中央大學	13	$\left\{ \begin{array}{l} 5-0 \\ 8-0 \end{array} \right\}$	0	青山學院
慈恵會醫科大學	6	$\left\{ \begin{array}{l} 3-1 \\ 3-0 \end{array} \right\}$	1	國學院大學
府立高等學校	1	$\left\{ \begin{array}{l} 1-5 \\ 0-3 \end{array} \right\}$	8	東京文理科大學
慶應義塾大學	7	$\left\{ \begin{array}{l} 2-0 \\ 5-0 \end{array} \right\}$	0	東京帝國大學
和田幸一郎 松本司郎 名取正也	}	F.W.	{	小出義彦 中島了忠 圖師
石原正				H.B.
中村勇夫 大前寛	}	F.B.	{	河野日出雄 富田國男
岡田平太郎				G.K.

☆藤原氏よりの通信☆

田畑御大の御注言の如く、實力50米を27秒臺で泳げるところを29秒で泳ぐつもりでこれまで奮闘して来て、どうやら今迄生き永らへて來ましたが、マラリヤといふものにとりつかれて到々入院といふ事になつて仕舞ひました。でももう元氣回復、近日常に退院して前線へ又飛出します。新聞で時々拜見して居るが、N. S. R. は忙しいでせう。オリンピック取止めで戦地の俺もがっかりした。こちらは暑いです、水も汚い、ウツカリ水でものむと赤痢、コレラ、チフスと來るんで全くやりきれません〇〇、〇〇、〇〇のコツも非常にうまくなりました。皆さんによろしく。(戦線より)

6月19日

成城高等學校	7	$\left\{ \begin{array}{l} 5-0 \\ 2-0 \end{array} \right\}$	0	青山學院
第一高等學校	7	$\left\{ \begin{array}{l} 4-1 \\ 3-0 \end{array} \right\}$	1	法政大學
東京高等學校	9	$\left\{ \begin{array}{l} 6-0 \\ 3-0 \end{array} \right\}$	0	府立高等學校

模範游泳

午後0時沖の白浪中に各競泳團が押寄せて來て陸上の大觀衆は刻々の狀況發表に大變な騒ぎである。時しも、ゴール線をなす一方の北矢倉に向ひ大卷浪の打ち下す海岸から泳進する二人の役員がある。見れば各片手には書類様のものを高く捧げて丈餘の浪に向つて進む。あはや一呑みにされたと思つたが、さにあらず浪の上から手が出て居る。荷物は決して濡れない、又次の浪、又その次の浪手は依然として敢然高く捧げられて居る。觀衆はどつと感歎の拍手喝采「何んと旨いではないか」である。この役員たるや當日の決勝審判の原正一さんと佐々木救さんである。その名前をきけば聯盟の人なら「ははあ夫は何んでもないことぢや」と肯定するまでのことであるが、兩先生の特別なる狀況に於けるこの模範泳法を拜見することが出來たのは有難い。

(渡邊延氏投)

昇格挑戦試合

2部對3部

府立高等學校	3	$\left\{ \begin{array}{l} 1-3 \\ 2-2 \end{array} \right\}$	5	成城高等學校
田中義一 中村稔 堀切淑彦	}	F.W.	{	守田謙三 竹尾快收 濱田
米本禮太郎				H.B.
石渡良一 渡邊三郎	}	F.B.	{	内山四郎 穗坂博明
野本陽				G.K.
審判員				川田稔

明治大學	3	$\left\{ \begin{array}{l} (2-2) \\ (1-1) \\ (0-0) \\ (0-1) \end{array} \right\}$	4	東京文理科大學
------	---	--	---	---------

偶 感

慶大水球チーム主將 大 前 寛

我々は勝つた、今迄幾年となく苦杯を嘗めたこの試合にその努力は報られ、宿敵早稲田を見事に撃破したのである。この勝利を考へる時に私の胸には唯感謝と感激が打ちふるへてゐるのみである。即ち私達を之迄に導いて下され、然かも中にはこの感激を味へず去つた諸先輩に對するもの又慶應義塾の名の下に最後迄「倒れて後已む」の義塾精神を發揮してくれた選手諸君に對するものである。

我々はこの一戦に對して毎年毎年「今年こそは」と云つて戦つて來た。然し不幸にして我に利あらずして破れ去つてゐたのである。今年は實に之迄の氣持を捨て新なる「必勝」の信念を以つて進んで來たのである。即ち消極的より積極的への轉換である。この氣持の下に我々一同は打倒早稲田を目指し、お互に研究し會ひ、又激勵し會つて來たのである。團

體競技に於てはその何れを問はず精神的結合即ちチームワークこそ、そのチームを勝利に導く第一要素であると私は信じてゐる。そして第二には鬪争心即ち旺盛なるファイト、技術的な事は第三次的なものであると思ふ。この第一、第二の要素を養ふ事に今年は特に努力したのである。

次の第三次的な技術方面に於ては、毎年毎年「スピードに劣る云々」と云はれた事に對して之の風評を破壊すべく自信をつけさせたのである。又そのシステムに於てはハンガリー、ドイツ等の一流チームの使用するフローティングシステムを採用したのである。このシステムもハンガリー等のチームに比較すべきはないが、今後の日本チームにもスピードを生かせと云ふ以外に矢張りこのシステムも重要なものであると云ひたい。



優勝せる慶大チーム

以上の如き結果は果せるかな、6月5日の早大との對抗戦に於て6對0といふ未だ早慶水球戦史に見ざる大差となつて表はれ、又12日のリーグ戦の優勝戦には2對1のスコアとなつて表はれたのである。

この二つの試合に就いて考へて見るとき、對抗戦の時には幸ひ和田君のシュートが盡く決まり實に樂な氣持で試合が出來、之と同時に、早稲田のあまり脆いのには驚ろいたのである。何故我々は今迄勝てなかつたのかと不思議に思はれてならなかつた。次のリーグ戦の時には早稲田の捨身の戦法に會ひ思はぬ苦戦をした、先づ點をとられた時も、私は……選手諸君もそうであつたらうと思ふが……決して敗けないだけの自信と鬪争心があつた。1點取られれば2點とるといふ氣持である。然かも我々は確實に之を實行して勝つたのである。

最後に一言したい事は我が日本の水球界をリードするコーチが僅かに早慶2校のみで勿論その間に日・立兩校の嚮頭はあるが、その普及程度も僅かに東京、大阪地方に限られ歐洲のそれに遙かに及ばず、又技術的にも劣つてゐる事を感じる時に、フロイン

ド氏の來朝があり、そのコーチをうけたが何せ短期間である爲にまともな事は出來なかつたと思ふ。そこで我が水球界を世界のレベルに引き上げるには國內に於て云々するばかりでなく、大いに歐洲の一流チームを招聘するか、日本チームを海外に派遣する方法よりないと思ふ。又國內普及の點に於ても各地に於て日本の一流チームのエキジビションゲームを公開するのも一方法ではあるまいか。更に水球は競泳人の片手間であるといふ今迄の觀念を捨て、眞に根底よりの水球人を作り出すのも重大な事であると思ふ。その他の適當な方法に依らざれば日本水球界の進歩發展は望まれないと信ずる。以上の事も私の感想として聯盟の方々に御願ひする次第であります。

— 完 —

フロイント氏による水球講習會の記

6月1日 朝 神宮プール

和田	F. W.	越川	
中村	F. W.	川田 (帝)	
齋藤	B.	市野 (立)	
永見	B.	大前	
川島	G. K.	岡田	

河原田	F. W.	名取	
松本	F. W.	石原	
奥田	C. H.	新間	
小野	B.	豊島	
武藤 (明)	B.	武藤	
岡田	G. K.	八木 (帝)	

晝 早大プール

古莊	G. K.	時尾 (拓)	
吉田 (早)	F. W.	森田 (日)	
半野 (法)	F. W.	川田 (帝)	
瀧藤 (一)	C. H.	武藤 (明)	
本田 (立)	B.	遠藤 (文)	
藤田 (O.B)	B.	河野 (W)	

フローティング F. W. をはずしてバツクマンが飛出す事それ自身は成功であるが、其の飛出した人は對手チームの1人を牽制する事を忘れてはならぬ。

ボール保持中考へ過ぎる、又他の人の動きなし。

ボールハンドリングが単純過ぎる。

午後早高プールに於て

L. F. としてのバツクハンドを示す。

手(腕)はまげぬ事。

ゴールに對して 90 度の位置を取る事。

6月2日 朝神宮プール

(A) Selected		(B)	
川島	G. K.	八木 (帝)	
松本	F. W.	森田 (日)	
名取	F. W.	平野 (日)	
和田	B.	川田 (帝)	
武藤 (早)	B.	永見	
河野 (早)	C. H.	新間	

山田 (早)	G. K.	岡田	
齋藤	F. W.	小野	
河原田	F. W.	越川	

奥田	C. H.	豊島	
大前	B.	壺田	
武藤 (明)	B.	山本 (早)	

晝 早高プール

(中學生チーム)

大藤	林 (早) G. K.	橋本	
佐々木 (早)	C. F.	鈴木	
半野 (法)	R. F.	清水	
武藤 (明)	C. H.	石田	
山田 (明)	L. B.	母家	
興津 (文)	R. B.	深野	

大藤	G. K.	橋本	
吉田 (早)	L. F.	清水	
佐々木 (日)	C. F.	山田 (明)	
森田 (日)	R. F.	中島 (拓)	
河田 (日)	C. H.	古莊	
葉室 (日)	L. B.	岩崎 (拓)	
深野	R. B.	河野 (拓)	

同じチームの人が集つたら如何なる場合でも散らなければならない。

KEIO 和田は Olympic の爲にバツクの練習をやつた方がよい。

両手を未だ使つた人を見ぬ。

モーションで敵をつる様な人が居ない。

6月3日 朝 神宮プール

		KEIO 第1軍	
千田	G. K.	岡田	
齋藤	L. F.	松本	
河野	C. F.	和田	
佐々木	R. F.	名取	
河原田	C. H.	石原	
渡邊 (K)	L. F.	中村	
川田 (帝)	R. F.	大前	

晝 早高プール

山中	G. K.	時尾	
飯田	L. F.	吉田 (早)	
藤田 (法)	C. F.	佐々木 (日)	
森田 (日)	R. F.	中島 (拓)	

中 村(早) C. H. 半 野(法)
 三 鴨(法) L. B. 武 藤(明)
 本 川(拓) R. B. 河 野(拓)

C. H.(ハーフバック)は1軍のリーダーであつて最も難所である。

C. H. は攻撃、防禦、其の間の1軍の動きを支配すべく、よく動いて全員をリードしなければならぬ。

6月7日

次の如く6チームを作り、發表

注意 A. B. C. D. E. F. は其の強弱の順に非ず。

A チーム (KEIO 第1軍)	B チーム	C チーム
G. K. 岡 田	野 口 (明)	川 島 (早)
L. F. 松 本	鶴 岡 (立)	本 間 (立)
C. F. 和 田	新 井 (立)	森 原 (日)
R. F. 名 取	齋 藤 (K)	飯 田 (早)
C. H. 石 原	葉室兄 (日)	河 野 (早)
L. B. 中 村	田 口 (立)	永 見 (早)
R. B. 大 前	平 野 (日)	葉 室 弟 (日)

D	E	F
G. K. 八木(帝)	時 尾 (拓)	千田(K) 山田(早)
L. F. 小野(早)	壺 田 (早)	大 崎 (立)
C. F. 越川(早)	横 山 (中)	豊 島 (早)
R. F. 新聞(早)	圖 師 (帝)	上 山 (立)
C. H. 奥田(早)	林 田 (日)	川 田 (帝)
L. B. 河野(拓)	河 野 (帝)	山田(早)武藤(明)
R. B. 武藤(早)	田 中 (一)	中 島 (拓)

Reserved: 大浦(立) 吉田(早) 小林(商) 川田(日) 森田(日) 佐々木(早) 河原田(K) 深野(早實)

朝	朝
川 島	G. K. 岡 田
小 野	L. F. 松 本
越 川	C. F. 齋 藤
新 間	R. F. 名 取
壺 田	C. H. 川 田
武 藤	L. B. 中 村
奥 田	R. B. 大 前

山 田 (早)	G. K.	岡 田
河 原 田	L. F.	松 本
越 川	C. F.	齋 藤
豊 島	R. F.	名 取
壺 田	C. H.	川 田
藤 田(早OB)	L. B.	中 村
奥 田	R. B.	大 前

今日の成績に依り次の9名を Pick up (別に大した意味なし)

新聞、壺田、奥田、河野(早)、岡田、松本、齋藤和田(慶)、川田(帝)

晝 神宮プール

武藤(明)、野口(明)、三鴨(法)、半野(法)、村上(法)、谷川(法)、時尾(拓)、宮本

以上8名の参加あれ共、試合施行不可能にて中止

6月8日 朝 神宮プール

2	1	
千 田	川 島	G. K. OKADA
森 原	壺 田	L. F. MATSUMOTO
新 間	齋 藤	C. F. WADA
河原田	五百木 (K)	R. F. NATORI
越 川	河 野 (早)	C. H. ISHIHARA
山 本 (早)	川 田 (帝)	L. B. NAKAMURA
小 野	奥 田	R. B. OMAE

小 川 (K)	G. K. 時 尾
西 尾 (K)	L. F. 豊 島
川 田 (日)	C. F. 越 川
小 林 (商)	R. F. 河 野 (拓)
山 本 (早)	C. H. 壺 田
葉室弟	L. B. 太 田 (明)
渡 邊 (K)	R. B. 武 藤 (明)

晝は早大東伏見へ行き1軍對2軍、3軍對4軍の試合見物、其後茶話會、オケサ踊見物ペラ嬢は共に踊る。

9日 朝 神宮プール

千 田	G. K. 岡 田
横 山 (中)	L. F. 時 尾
圖 師	C. F. 川 田 (日)
齋 藤	R. F. 河 野 (拓)
川 田 (帝)	C. H. 山 本
田 中 (一)	L. B. 葉 室
豊 島	R. B. 武 藤 (明)

川 島	G. K. 岡 田
小 野	L. F. 松 本
新 間	C. F. 和 田
越 川	R. F. 名 取
奥 田	C. H. 石 原
武 藤	L. B. 中 村
永 見	R. B. 大 前

山 田	G. K. 千 田
横 山 (中)	L. F. 五百木

圖	師	C. F.	牧	野 (早)
豐	島	R. F.	齋	藤
河	原	C. H.	川	田 (帝)
田	中 ()	L. B.	渡	邊
山	崎 (K)	R. B.	中	島 (帝)

午後練習は中止

10日 朝

川	島	G. K.	岡	田
圖	師	L. F.	松	本
越	川	C. F.	和	田
豐	島	R. F.	名	取
奥	田	C. H.	石	原
葉	室 (弟)	L. B.	河	原
川	田 (日)	R. B.	大	前

山	田	G. K.	八	木
小	野	L. F.	中	島
齋	藤	C. F.	越	川
飯	田	R. F.	河	野 (拓)
河	野 (帝)	C. H.	川	田 (帝)
山	本	L. B.	永	見
渡	邊	R. B.	壺	田

葉	室 (兄)	G. K.	時	尾
平	野	L. F.	小	野
西	尾	C. F.	齋	藤
山	崎 (K)	R. F.	飯	田
阪	上(早O.B)	L. H.	越	川
武	藤 (明)	L. B.	壺	田
岩	崎 (拓)	R. B.	永	見

球の位置

自己の位置、敵軍の配備、友軍配備、兎に角20×30 meterのエリア内を見よ。

まづ見よ！ look！

然して考へる事なしにパス出来る様に練習する事が必要である。

フロイド氏曰く

自分がハンガリーチームをコーチした時には合宿所内の壁に Look! Look!この1字を □□ 型に入れて朝に夕に見せた。

11日 朝

午後リーグ戦が行はれるので参加人員少く、チーム編成の出来なかつたので Free 練習、フロイド氏も共に這入り得意のバックハンドを示す。

12日 朝

法政對東高 早大對KEIO 2 試合見物。

晝 KEIO へ

夕 ニューグランドに於てレセプション

リレーシュートの場合

リレーする手は必ずコール側におく事、其の爲にはより早く position を作る事。

1人が動いたら全員は其れに従つて動くべきである、即ちチームの1人が動けば正しい己の位置をとる爲に全員動くべきだ、現在の日本チームは對ハンガリー、ドイツに於ても度々得點のチャンスはつかめるだらうけれど、得點は出来ないだらう。(これはシュートの不完成による)その爲にゴール前に2人のキーパーをおいて遠、近、横前種々のシュートの練習をせよ。

6月16日 甲子園に於てコーチ

17日

6月18日 下記の16名を Pick Up

山村(關大) 片山(大商大) 宇津(大高醫) 田所(茨木水泳團) 矢野(關大) 谷川(關學) 崎山(關學) 矢住(關學) 田崎(關學) 中村(神商大) 喜田(關學) 串田(關學) 苗村(大高) 島田(關學) 庄田(關學) 黒田(關學)

「病ひは氣から」

日大水泳部の合宿で、飛込の柴原恒雄君、どうも耳を痛めたらしいと言ふので自分で工夫して天井から糸で氷嚢をブラ下げて耳を冷し乍ら就寝した、翌朝、葉室君が起しに行くと、柴原君ふとんの上に大の字に而も氷嚢をお臍の上にのせたまゝ高いびき、朝食の時「おい、柴原、耳はもういゝのかい」と聞けば、本人「ゆうべ、ひと晩中、氷嚢で冷したから今日はもうすっかり直つたよ」お臍を冷してゐた事は一向御存じない。葉室君一同クスクス笑つて、「成程、昔しから病は氣からと言ふからな」(R. S)

パリー訛り

日伊交換教授の大任を了へて先頃歸國した石本評議員のみやげ話は仲々面白い。佛蘭西語の得意な教授をとらへてあるパリ雀が「プロフェツスールの佛蘭西語には訛りがありますよ、Rの發音が巴里訛りに訛つてるんですよ」と指摘したさうだ。得意中の得意である佛語にかうしたすごい答がはえてゐると云ふので教授も悪い氣持ではなささうだ。因みにローマ訛りの伊太利語の件は残念乍ら聞洩らした。

聯 盟 議 事 録

理 事 會 6 月 29 日 於事務所

1. 第一回團體長距離競泳全國大會の競技要項を承認す 準備委員會の人選は野田主事に一任す
2. 名古屋體育協會の本聯盟加盟代表權を名古屋水上競技聯盟へ譲渡の件承認
3. 水球委員長岡田辰雄氏都合により辭任後任笹島彦次郎氏決定
4. 建設測定委員會の時計管理規定原案を承認決定

評 議 員 會 7 月 4 日 於はつね

1. オリニツク情勢其の他種々協議す

常務理事會 7 月 10 日 於事務所

1. 全國小學校ラヂオ水泳本會に付協議す
2. 東京朝日新聞五十周年記念事業たる全國女子水泳體育大會開催に關し木村氏の開催趣旨並に計畫内容を聴取の上協議の後同大會を援助することに決定
3. 聯合映畫社より水泳映畫撮影に關し援助方懇請ありたる爲 審議の結果手数のかからない範圍内に於て同申出に同意することに決定す

常務理事會 7 月 20 日 於事務所

1. 東京市芝プール十五週年記念祝賀並に第三回百貨店水上競技會に會長の祝詞を贈ること
2. 次の五プールを公認す
 - A. 群馬縣高崎市高崎プール 50 米公認 82 號
(特別に 82 號として公認)
 - B. 名古屋振甫プール 50 米再公認 26 號
 - C. 徳島縣池田町プール 50 米 公認 83 號
 - D. 長崎縣長崎高女プール 25 米 公認 84 號
 - E. 東京電機無線プール 25 米 公認 85 號
3. 測定委員 金澤壽吉氏(東大理學部出身 現慶應教授)に依囑の件

4. 本年度の事業計畫は既定方針通りに行ふことに決定個々の問題具體的なことは改めて協議すること
5. オリニツク銓衡委員並びに本聯盟より派遣する日本選手權大會役員の銓衡は會長に一任と決定

以上

常務理事會 8 月 3 日 於事務所

1. 強化委員會の方針(強化策)
原則強化策については東京大會中止にも拘らず昨年決定したる本年度行ふ事を實行して行ふこと

2. 中等競泳強化策
全日本中第三位迄に入選したる者及他の適當なるものを銓衡して四十九名前後をピツクアップする事豫め東部中部西部より之が候補をピツクアップする事

監 督 川合嘉功

コーチ 齋藤巍洋 高石勝男 竹林隆二
甲子園にて合宿練習を爲す

1. 水 球
全日本終了後 ナショナルチームを選び日本水球代表軍と稱す コーチ、マネージャーを含めて二十三名 場所玉川或は茨城にて正味一週間の合宿練習を爲す
2. 飛込 全日本三位迄入賞者をインターカレッジの後早稻田プールにて合宿練習する尙原委員より、中等飛込の合宿に付き提案ありたるも前記原則により取止の事
3. 學生に對する旅費支給の件
三等二割引及普通急行券車中辨當を支給す

聯 盟 日 誌

6 月 27 日	實行(學聯)委員會	事務所	田畑、野田、大橋、根來氏等正午
28 日	女子部委員會	事務所	事務所にて小學校ラヂオ水泳會
	水球競技委員會	事務所	遠泳等に付き要談
29 日	理事會	事務所	7 日 小學校委員會 事務所
7 月 1 日	競泳池公認委員會	事務所	8 日 競泳池公認委員會 事務所
2 日	學聯飛込委員會	事務所	9 日 常務理事會 事務所
4 日	評議員會	はつね	指導講習會委員會 事務所
5 日	エカート嬢招待會(女子部)	井上	13 日 遠泳準備委員會 事務所
	遠泳打合會	事務所	14 日 飛込(學聯)競技委員會 事務所

15 日	水球誌 57 號發行す(各地發送)		26 日	全國各府縣學務部長宛國民皆泳	
	競泳池公認委員會	事務所		全國學童大會趣意書及要項發送	
16 日	實行(學聯)委員會	事務所	27 日	常務理事會	事務所
	小學校委員會	事務所	28 日	水球競技委員會	事務所
18 日	團體競泳實行委員會	中央亭	8 月 7 日	團體競泳全國大會準備委員會	事務所
	飛込競技委員會	事務所	2 日	インターミドルメンバー交換	
	實行(學聯)委員會	事務所		プログラム編成會	事務所
20 日	常務理事會	事務所		飛込競技委員會	事務所
21 日	團體競泳實行委員會	熱海	3 日	常務理事會	事務所
25 日	實行(學聯)委員會	事務所	11 日	理事會	事務所

渡邊延氏

本號は同氏の手になる原稿が多いが、先頃の熱海遠泳の時佐世保鎮守府の選手が優勝したので大へんに嬉しさうだつた「海軍が勝つておめでたう」と云へば同氏は「海軍が勝つた事は嬉しいですが佐世保が勝つたので尙うれしいのです」と、鶴田義行選手の育ての親である海軍將校の渡邊氏と佐世保鎮守府とは縁が深いので餘程嬉しかつたであらう。

高木繁君

新聞廣告が利いたか聯盟事務員募集へは申込が何と男女合せて 111 人。履歴書が一一便毎に 20、30 と束になつてほりこまれる。その 111 人のうちから選ばれた 1 人がこの高木繁君と云ふ紅顔可憐の美少年である。もう仕事にも慣れて来たが入社(?)當時はシーズンに入りかけで仕事が山と云ふほどある。歸宅はいつも 11 時すぎで丸ビルのループトンネルのお世話にばかりになつて、これではどうなるかと度膽をぬかれたらしい。人がふへたので聯盟の仕事が楽になると思はれたら大間違で、熱海遠泳、小學校團體競泳、インタハイと新しい計畫の多い今年の N. S. R. はまるで忙しく、朴訥な島田事務氏、新人高木君八面六臂の活躍をなしてゐるが尙追ひつかないでゐる。

國民皆泳未し

温水が耳に入ると中耳炎を起しやすい、故にまき足が無難であると解釋されたかどうかは分らんが、8 月 7 日熱海は大月館の大プールで本格的な立泳ぎ

をしてゐた末弘會長の現状を松浦、磯野兩氏が目撃して聯盟で披露して曰く「末弘先生の泳ぎを始めてみたが仲々大したものだつた」と。側で之をきいてゐた面々「さう云へば巨象の如き飯田さんやら、パンツをかきあげるくせのある石本さんの泳ぎはみる光榮を有したが、末弘會長と田畑評議員の泳ぎはまだみた事がない」「うん、さうだ國民皆泳の宗家様はその範をみせてくれなくては畫龍點睛を缺ぐ憾がある」「それでは祕中の祕である兩氏の泳ぎをみる會を開いたら如何」「うん手ぬるい國民皆泳だから泳がせる會だよ」「俺はコーチがしてみたい」「今度の實業團大會に出場して貰ふかな」「さうだそれで國民皆泳の趣旨が徹底し國民皆泳全しと云ふことになるよ」…………と。

丸ビルのループトンネル

エレベーターの運轉手諸氏の名と顔を全部覚えていさゝか丸ビル通を誇つてゐた所、先日の出來事でそれが他愛ない誇りにすぎない事が分つた。

丸ビルも 11 時になるとピツタリと戸を閉める、8 月 3 日の夜は日本中等の準備とか、熱海團體遠泳の準備で忙しく 10 時すぎても仕事が終らない。漸く 11 時頃に仕事がすんだ。それエレベーターがなくなる、それ戸がしまると騒いでも追付かない。エレベーターだけは 3、4 度強引に呼鈴を押して無理して貰つたが、下へ降りるともう出口がない、晝間の喧噪に引かへ 11 時すぎの丸ビルはだまりこくつて、とりつくしまもない。さてどーしやうと思案してゐると、こつちだよこつちだよと自信たつぷりの言が、がらん洞の丸ビルへ反響して来る。とにかくついて行けばいいだらうと聲の主のあとへついてゆく。何處をどつちへ行つたか忘れてしまつたが、とにかく四五回右に左にまはつて地下室へ出た。かびくさい冷氣が「何事もそなたまかせ」にまかせてゐ

る心を不安と獵奇の兩方へひきずりこむ。これから先の丸ビルは神祕の宮殿である。靴音だけが人間らしい音をたててゐる。「オツツトこつちは道が違ふ引返しだ」そんな風にして地下室の中を確かにぐるりとまはつてやつと出口に出た。丸ビルにもこんな抜穴がある事を始めて知つて驚き入つた次第である。出口で松澤さんが「かうこなければ聯盟も夏が來た気がしないよ」と言はれたが、皆成程と情なさうに丸ビルを見上げながら歸つて行きました。

笑ひのN・G

先日、パラマウント映畫で水泳を寫した際大澤政代嬢の番になると、小柳君、柴原君一同悪童共が豫ねてたくらんでゐて、一度にワツとばかりに、アカンペーをするもの、メーツと妙な顔をするもの、大澤嬢を笑はせやうとした、本人は笑うまいとすればする程お可笑しくなつて遂に笑ひころげた所をすっかり寫されてしまつたので、大澤嬢はどんな風に寫つてゐるか心配で心配でたまらない、試寫の日を待ち兼ねて見に行つた所、そこはもうちやんとカットされてゐて、本人は半月振りでもホツと安心した。

大澤嬢あの笑ひ轉げた姿がN・Gになつて層籠に入つて了つたのは如何にも残念なので、茲に、せめて事の次第を書止めて置く。(R・S)

サンドキツチの辨

ゴシツプとか何とか採集してゐるとどうも方々からうらまれる。探索くせが自然についたのかよく敬遠される。書いちゃ駄目よと念を押され、書かぬと誓言せぬと實を割つて貰へない。それかと云つて未被害者から何に心臓だよしつかりしつかりと聲援しきりである。僕は云はゞサンドキツチになつてゐるのであるが何と云ふサンドキツチか随分情ないサンドキツチではある。

編輯後記

大阪の日本選手権大會に於ける末弘會長の開會の辭の一部を次に採録さしていただく。

「吾々にとつては、今更らしく「競技本位」を棄て、「國民體位向上」に専念すべしと言ふが如き空念佛を唱へる必要は絶対にありません。吾々の目標とする「國民皆泳」と「世界制覇」との間には本質上何等の矛盾もないのでありまして、國民皆泳の自然的結果として「世界制覇」が産まれるのであります。ピラミツドの高きは其底邊の廣きに依る、廣きが故に益々高く、愈々高からしめんが爲めに益々廣からしめねばならない。要するにピラミツドの頂點のみが全體と離れて意味をもつのではなくして、大なるピラミツドそれ自身が全體として巍然世界水泳界の上に聳え立つ所にこそ「水上日本」の本領があるのであります。」

日本選手権大會前に發行しやうと思つたが忙しくて出せなかつた。その上大阪から名古屋、名古屋から京都と轉々居をうつして連絡上改洋社へ多大の御迷惑をかけて、未だしの感深い裡に一先づまとめ上げた。

ゴシツプみたいなものが多いが、シーズン最中で原稿が手に入らず頁うめにやりました。しつこい様ですが悪しかず。

本誌も經營上、又内容上多大の再検討を加へねばならぬと思つてゐる。近々號から第一歩が踏み出される事と思ふが多少の變改は我慢してもらふ事にする。(横尾 清吾)

日本水上競技
聯盟機關雜誌

水 泳

第58號

昭和十三年八月二十八日納本

昭和十三年八月三十一日發行

(日本水上競技聯盟代表)

編輯兼發行人 横 尾 清 吾

印刷人 米 田 眞 二

印刷所 改 洋 社

東京市豊島區巢鴨1丁目3番地

定價30錢 年8回發行豫定・8回分 ¥2.40

豫約申込者に限り頒布す(1年前金豫約は送料不要)

廣告料 10圓乃至35圓 御申込次第詳細回答

發行並 東京市麴町區丸ビル581

申込所 日本水上競技聯盟編輯事務所
振替口座東京三九九一九番